

山手台小学校区

山手台小学校区 ワークショップ実施概要

テーマ	山手台のまちにおける、「移動」「地域交通」について		
実施内容	第1回	令和元年9月19日（木）19時30分-21時	21人
		山手台のまちにおいて、「移動」「地域交通」に関して「困っていること」を出し合おう！	
	第2回	令和元年11月21日（木）19時30分-21時	17人
		課題別に対策案を考えてみよう！	
	第3回	令和2年2月20日（木）19時30分-21時	19人
		取組を実現するためのスケジュールやアクションを考えよう！	
結果概要	○山手台で必要な新たな移動手段を実現するためのアクションと仕組みの提案 ・アンケート調査による移動に関する住民ニーズや困りごとの把握 ・基礎資料の提示（人口動態、先行事例や各路線の時間帯通行量など） ・様々なニーズに対応する移動手段の実現に向けた手法の検討と組織づくり（日赤の送迎サービスの広報、乗り合いタクシーなど、ドア to ドアの移動支援、マッチングセンターの設立など） ○山手台が今よりも歩きやすいまちとするためのアクションの提案 ・通学路など重点エリアでの落ち葉拾い（银杏拾いもかねてイベント化） →まずは年に2回程度からスタートしてみる。 ・ラジオ体操に参加している方々の参加を促す。 ○山手台での交通事故がなくなることを目指したアクションの提案 ・交通ハザードマップをつくる。 ・フェスティバルなどで、交通マナーについて、中高生の意見を集める。 ・道路の白線等の引き直し（地図上での確認、共有） ・子どもの見守り、通学時の安全確保 ・自転車の交通ルールに関する啓発活動		
来年度以降 に向けて	都市政策課において、地域内交通の課題解決に向けたワークショップ実施予定		
	・伏尾台での住民主体の取組について、事例紹介 ・令和元年度で導き出した具体的な方向性の具現化 ・大学と連携し、共創ラボを展開		

【WSの様子：写真】

第1回



第2回



第3回



第1回ワークショップのまとめ

第1回ワークショップでは、山手台のまちにおいて、「移動」「地域交通」に関して「困っていること」を出し合おう」をテーマに

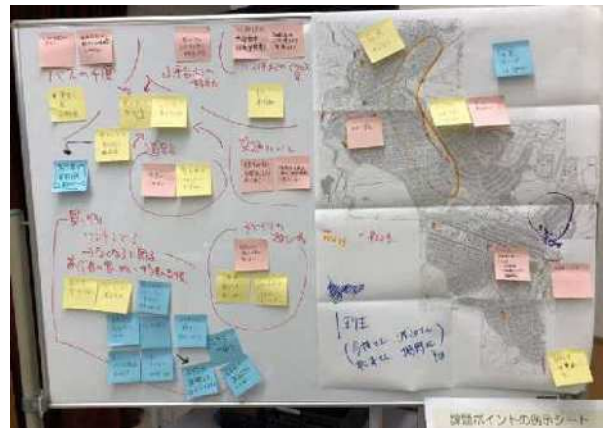
- ・ 前向きな発想につながるアイスブレイク
- ・ 山手台のまちの高低差やバス路線の状況を再確認
- ・ 地域における「移動」や「地域交通」に関する困りごとについての話し合い
- ・ みなさんが感じている困りごとについて参加者全体で共有



■第1回ワークショップで各班から出た意見の整理

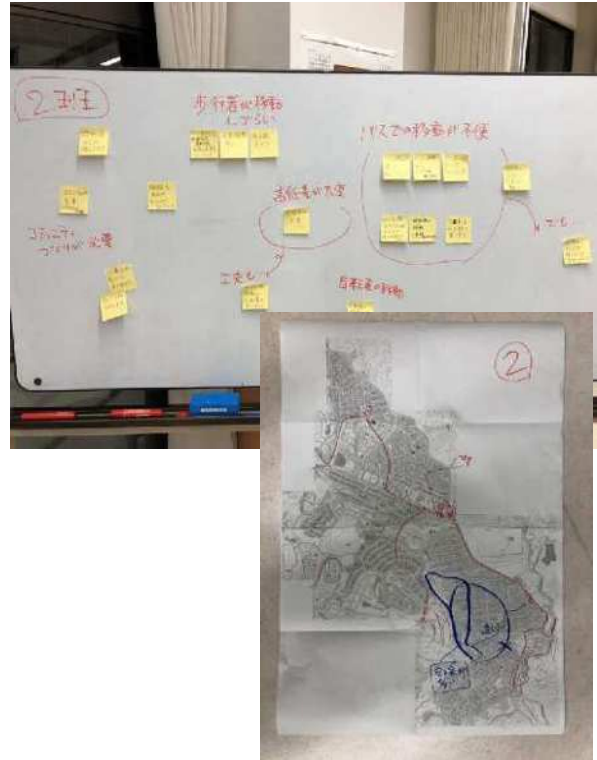
1班

山手台のエリア内での移動がしにくい	・高齢者はバス停までも苦痛のよう ・坂が多く、山手台の中の移動が大変 ・山手台の中でも車移動 ・バス停までの移動車があればよい
バス便の不便	・バスの本数が少ない ・道路状況により駅までの時間がかかめない ・運賃も高い、山料金
道路環境の問題	・歩道が狭い ・電動車いす、シニアカーも危ない！
交通ルールが守られていない	・交差点が多く、その都度止まらなくては！ ・住宅内を走る車が制限速度を守っていない
交通が不便な結果起こる問題	・コミセンにも来れなくなる ・足がないと外出しなくなる ・車に乗れなくなり中心部に移転出 ・高齢者の共同住宅を都心につくればよいのでは。
子どもの遊び場	・子供たちの遊び場がすくない ・自転車乗るにも車にのせて ・公園でも「うるさい！」「ルール多い」
買い物(ツジミで！) 高齢者の買い物・移動支援	・ツジミがなくなると困る ・ツジミでの買い物自宅へ配送 ・運転手は定年後の世代、個人の車で ・デイサービスの帰りに降ろしてもらう ・山手台内循環バス(ハイエースでも) →1回5〜6人、200円/回 ・山手台の中を住民で送迎できるしくみ
その他の意見	・安全マップはまだない ・死角、みえない ・団地入り口の三叉路であおり運転がある ・通学路スピード速い(車両全て) ・下りの車のスピード ・ツジミ前から消防署方面の下り坂で信号無視や自転車のスピードが速く、危険 ・消防署の三叉路が危険



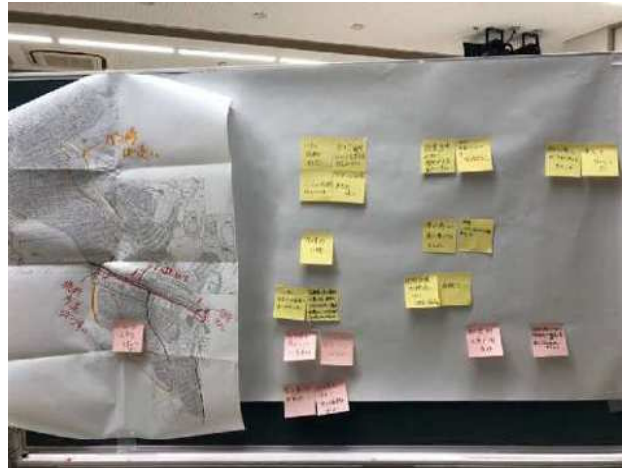
2班

バスでの移動が不便	・バス通勤からバイク通勤になった ・タマホームのバスなくなった ・改修ときに合意が難しい ・飲酒後の移動(車に乗れないため)が不便 ・実際にバスを使う人は少ないのでは
山手台のエリア内での移動がしにくい	・バス停まで坂が多い ・バス停まで子どもを1人で歩かせるのが怖い ・会合に参加するための往復移動の交通費を出している ・自転車の移動が多い
道路環境の問題	・危険箇所 ・幼稚園前横断歩道、高齢者の車の速度が速い ・歩道の段差多い ・木の根上がり
高低差が大変	・高低差が大変
コミュニティづくりが必要	・コミュニティが大事(イキイキネット会議) ・2人暮らしは互いに送り迎え ・1人になるとひきこもり ・認知症の人が増えてきた
交通ルールが守られていない	・路駐もあるがなんとなかなっている
その他の意見	・空き家が多い



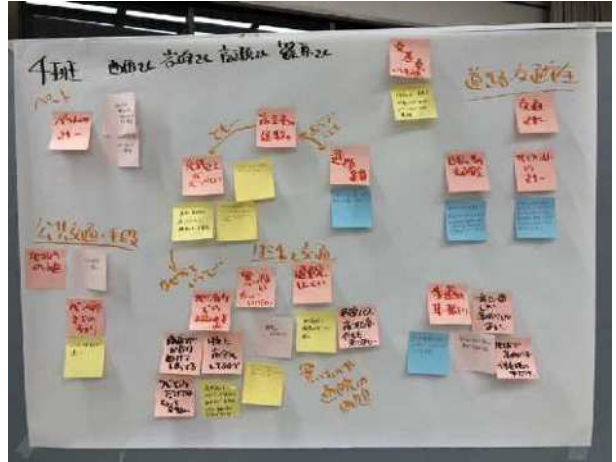
3班

バスでの移動が不便	・バスの減便が相次ぐ ・バスの時間、JRのバス停 ・便が悪いので車に乗らざるをえない ・七丁目を回るルートがない ・ぐるぐる山手台をまわってほしい
山手台のエリア内での移動がしにくい	・バス停が遠くやむ得ず車利用 ・ドア〜バス停までが遠い ・山手台の街を巡回しているバスがあると良い ・バス停から自宅までの距離が遠い地域がある
買い物が不便	・高齢者の方の普段のお買い物 ・坂もありツジミまで行って買えば配達していただけるが足が悪くなれば歩けない ・配達料を市で一部負担してもらえないか
通院が不便	・病院ない ・在宅医療の環境にない(地区に病院ない) ・赤十字病院に行く公共交通手段がない
道路環境の問題	・全体的に暗い ・雑草・落ち葉が多く、掃除が大変。通行が危ない ・全体的に坂道の凸凹が多い。
コミュニティづくりが必要	・他人に関心がうすくなってきている ・表札もなくなってきた
高齢者の運転の問題	・高齢者運転(75歳以上)急発進防止装置の義務化(市の条例)入れる ・昔は乗り合いがあったが、今は運転に不安で乗せる勇気がない
その他の意見	・バス停が遠い ・とばしがち ・信号なし ・横断歩道がうすい



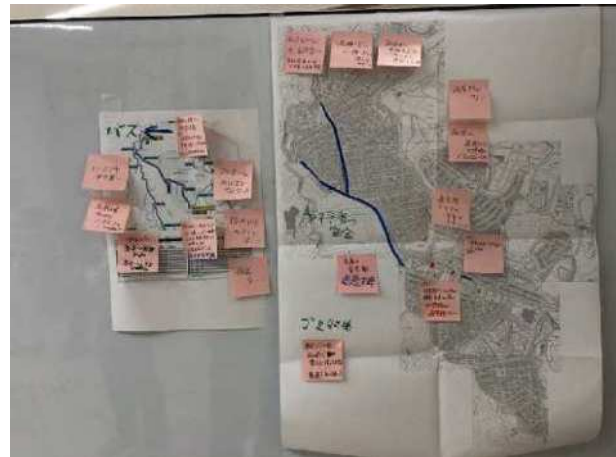
4班

バスでの移動が不便 山手台のエリア内での移動がしにくい	・バス代が高い ・バス停までが遠い
通学路の危険箇所	・小学生の通学路の危険箇所の改善をして欲しい ・高齢者の運転で危ない場面もある
高齢者の運転の問題	・免許返上が難しい ・運転免許証返上したら移動が大変そう ・ツジミ内でも運転も怖いケースがある ・やはり免許返上に対するリスクが強いと感じる(コンビニにさえ歩くのが大変)
買い物や通院が不便	・買い物は歩いていけない ・商店がかなりぬけてしまってる ・特に高齢化してる中で買い物不便 ・つじとみだけではちょっと足りない ・食料品はツジミがあるので助かるが、日用品になると市内に行かなければならない ・特に5〜7丁目の方はツジミへの買い物でさえ車がないと大変 ・通院が難しい ・地域内に病院がないので困る ・病院バス高槻日赤行きも来てほしい
自転車の交通マナー	・茨木市が北茨木地域のサイクリングコースを推奨しているが、マナーの悪い方が多く車の交通が危険。推奨するならマナーの向上もしっかり指導してほしい。 ・自転車の交通安全 ・電動アシスト付き自転車の普及により、山手台地区でも自転車通勤、通学者が増えています。坂道の多い地域なので下り坂のスピードの出し過ぎに注意してもらいたい
危険な交差点の問題	・交差点の事故 ・信号のない交差点が多いので出会いがしがらとても危険
道路環境の問題	・歩道の草・根上がり ・一年に一回しか草刈りをしない ・草などすぐに生えて道が狭くなる ・地域で草刈りはしているが住宅地の中だけで道路の草刈りはできていない
ペットのマナー	・ペットのマナー ・犬のフンの後始末をしない人いるので困る ・のらねこが多い、フンなどが困る
その他の意見	・通学路に柵を！



5班

バスでの移動が不便	・高齢者向けにノンステップのバスがあれば ・バス料金が高い 茨木→彩都 ¥280 茨木→山手台 ¥370 ・現在の不満 ①山手台の7丁目を経由しないバスがある。すべて7丁目を経由できれば ②市内へ出るバスでJR方面が1時間に3本、阪急方面が1時間に1本、出発時間が2分。前は15分間隔 ・タマホームのバスがなくなった ・阪急バスのばしてほしい ・回送が多い
山手台のエリア内での移動がしにくい	・バス停まで遠い
モノレールの延伸希望	・名神沿いに伸ばしてほしいが・・・ ・一阪急が土地をもっていないのできびしい ・モノレールを山手台へ ・当初計画では山手台に来る予定だったが・・・
道路環境の問題	・横断歩道で陥没穴がある
交通ルールが守られていない	・交通の安全面 ・通過する車
通学路の危険箇所	・通学路子どもの見守りもやっている ・通学路となっている所に横断歩道が無い
ゴミ収集	・粗大ゴミの日目の前で堂々と持ってくる ・普通？気にしない？



■第1回ワークショップで各班から出た意見の整理

①生活を支える「移動」の問題

課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容
バス便の不便	バスの本数が少ない	手台のエリア内での移動がしにくい	バス停までが遠い	買い物が不便な問題	ツツミがなくなると困るが、ツツミだけではちょっと足りない	通院が不便な問題	通院しにくい
	運賃が高い		坂が多く、手台台の中の移動が大変		高齢者の方の普役のお買い物袋もありツツミまで行って買えば配達していただけるが足が悪くれば買い物に行くことさえできない。		地域内に病院がないので困る
	時間が読めない		バス停までも子ども1人で歩かせるのが怖い		買い物は歩いていけない		病院バス高槻日赤行きも来てほしい
	タマホームのバスがなくなった		高齢者はバス停までも苦痛のよう		食料品はツツミがあるので助かるが、日用品となると市内に行かなければならない		在宅医療の環境にない(地区に病院ない)
	実際にバスを使う人は少ないのでは		特に5〜7丁目の方はツツミへの買い物でさそ車がないと大変				

②道路・交通の安心・安全の問題

課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容
歩道の道路環境について	歩道が狭い	交通マナーの問題(自動車)	交差点が多く、その都度止まらなくては！	交通マナーの問題(自転車)	サイクリングコースを推奨するならマナーの向上もしっかり指導してほしい。	通学路の危険箇所	小学生の通学路の危険箇所の改善をして欲しい
	全体的に暗い		住宅内を走る車が制限速度を守っていない		電動アシスト付き自転車の普及により、自転車通勤、通学者が増えている。坂道の多い地域なので下り坂のスピードの出し過ぎに注意してほしい		通学路子どもも見守りもやっている
	雑草・落ち葉が多く、掃除が大変。通行が危ない。				自転車の交通安全		通学路となっている所に横断歩道が無い。中学校の通学路なのに
	坂道の凸凹が多い。歩道の根上がり						通学路スピード速い(車両全て)
	一年に一回しか草刈りをしない						
	車などすぐに生えて道が狭くなる						
	地域で草刈りはしているが住宅地の中だけで道路の草刈りはできていない						
横断歩道で陥没穴がある							

③交通マナー等の問題

課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容
交通事故危険箇所	ツツミ前から消防署方面への下り坂 ・信号無視 ・自転車スピード	高齢者の運転の問題	運転免許返上したら移動が大変そう	モノレールの延伸希望	名神沿いに伸ばしてほしいが・・・	交通が不便な結果起こる街の問題点	コミセンにも来れなくなる
	団地入口の三叉路		免許返上をすると買い物ができなくなる		モノレールを山手台へ当初計画では山手台に来る予定だったが・・・		足がのびと外出しなくなる
	消防署の三叉路						車に乗れなくなり中心部に移転出
	信号のない交差点が多いので出合いがしらとかとても危険						

④その他のまちづくり課題

課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容	課題の分類	課題内容
コミュニケーションの必要性	2人暮らしは互いに送り迎え	ペットのマナー	犬のフンの後しましなない人がいるので困る	子どもの遊び場が少ない	子供たちの遊び場がすくない
	1人になるとひきこもり		のらねこが多い、フンが多いが困る		公園でも「うるさい!」「ルール多い」
	認知症の人が増えてきた 他人に関心が弱くなってきている などになってきた				

第2回ワークショップのまとめ

第2回ワークショップでは、第1回で出された山手台の移動・交通に関する課題について、「課題別に対策案を考えてみよう！」をテーマに

- ・ 前向きな発想につながるアイスブレイク
- ・ 次ページの課題テーマ別に解決に向けたアイデアを出し合い、参加者みんなで共有



第2回目の課題テーマ

①生活を支える「移動」の問題

- ・ 買い物しやすくするために
- ・ 通院しやすくするために
- ・ 山手台の中での移動をしやすくするために

②道路・交通の安心・安全の問題

- ・ 歩道の道路環境（草・陥没など）
- ・ 交通事故の危険のある箇所
- ・ 通学路の危険箇所

③交通マナー等の問題

- ・ 自動車の交通マナー
- ・ 自転車の交通マナー
- ・ 高齢者の運転の問題

④その他のまちづくり課題

- ・ コミュニティの希薄化
- ・ ペットのマナー問題
- ・ 子どもの遊び場不足
- ・ その他（住まい・定住・高齢者の暮らしなど？）

第2回ワークショップで出された班ごとの意見

1 班 ①生活を支える「移動」の問題		
課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【通院に対する問題】 ・高槻赤十字病院に通院する人が多いが、適当な交通機関がない。 ・知り合いに送迎してもらっている人もいるが、送迎してもらえない人がいない人もいる。 ・高槻にある病院なので、バスを走らせることは難しそうだ。 ・そもそも山手台では、かかりつけ医をどうするかという問題がある。看取りできる医院がない。 【買い物に対する問題】 ・買い物に出て行くことができない人（特に高齢者）の対応が必要になってきている。 ・大きなものを買う場合に、持って帰れないという不安がある。 【バス便に対する問題】 ・山手台までのバス運賃が¥880 と他と比べて高い。 ・実際はバスを利用せず、運賃よりも高い駐車場代を払ってでも、車で買物に出ることが多いようだ。 ・バスの利便性を高めるには、利用客の増加を考える必要がある。 ・茨木サニータウン線（77 番）の実現に長くかかったが、往復路線のため、時間がかかる。 ・バスを利用すると高槻駅まで1 時間もかかる。 【山手台内移動に対する問題】 ・山手台の中での移動手段がない。例えば、バス停までの足、買物への足など。	○必要な地域交通を検討するうえで、住民のニーズ・実態（移動目的・適切な移動手段・ルート）をまず把握する必要がある。 ○移動に関する事業者（バス・タクシー）以外に地元でできることを考える。（福祉委員会による配達サービス充実や助け合い送迎できる方法等） ○バス利用の促進を行う方法を考える。 ○利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える	＜移動ニーズの具体的に把握する（アンケート等）＞ ・ドア to ドアが求められるが、すべての住民にとって利便性の良い移動方法というのは実現が難しい。 ・実際にどのような移動ニーズがあるのかを把握してから対策を検討する必要がある。（必要な人は誰か、バス停までなのか、買物なのか、通院なのか、市内へ直接行きたいのか等）。 ＜日赤との連携・提案＞ ・山手台からの通院人数を把握する。 ・高槻赤十字病院に山手台の通院ニーズや送迎手段について提案する。 ＜助け合う関係づくり：住民の情報を把握する＞ ・例えば高槻赤十字病院へ、通勤ついでに知人を送ることもある。（通勤ついでなので可能） ・そういった住民同士の助け合う関係づくり・コミュニティづくりも大切。 ・自主防災会では、1 人暮らし、認知症の方の把握をしようとしている。 ・一方、住民の情報が個人情報保護の観点から得られない状況もある。 ・住民の情報やニーズを地域で把握する。 ＜福祉委員会による配達サービスの充実＞ ・コープの配達を利用している人も多いが、会費や注文が必要。 ・福祉委員会による配達サービスの現状 ➢ 40 人程度のスタッフでシフト制（AM2 人、PM2 人、4 人／日） ➢ 依頼件数：1 日 5～6 件で、最多 17 件という日もあった。 ➢ 福祉委員会でのスタッフの確保、シフト体制づくりが課題。 ➢ ツジトミは受付等の場所を無償で提供していただいている。 ➢ 費用は配達料＋福祉委員会の予算による。スタッフは皆ボランティア。 ・ツジトミの集客確保のためにツジトミによる配達はできないのか。（以前はあったが採算が合わなかったようだ） ・電話で注文を受けて、福祉委員会が火曜日に配達することはできないか。 ・明石市ではおむつの配達事業を開始するようだ（配達は目的というよりも支援が必要な人の把握、アウトリーチの考え方）

		＜送迎サービスを地元で運営する＞ ・車両を市が貸与し、運転やガソリン代を地元が担うことで実現できないか。 ・乗降バス（山手台内の乗り降り自由）を走らせる。 ＜タクシーの利用促進・支援＞ ・タクシーのような移動手段が必要 ・車を維持するよりもタクシー利用の方が安く済むことも事実で、すでにタクシーを上手く使っている人もいる。 ・タクシーチケットの配布はどうか（月 1 片道分等） ＜バスルートの提案＞ ・JR 茨木ー山手台ー阪急茨木市の循環ルートがあれば便利！本数よりもルート改善で良くなるはず。 ・循環バスは難しい・採算が合わないという話もある。 ・循環バスの社会実験をやってはどうか。 ・他より運賃が高い部分についての補助も検討してほしい。
--	--	--

テーマ以外で話し合った大切な内容

＜話し合いの場への参加保障を＞

（今日参加できなかったママの声）

- ・ 平日の夜に開催する場には参加できない・意見を聞くつもりはないと現していることと同じ。

⇒話し合いの場を様々な時間帯に開催を（参加保障）

＜自治会・管理組合の運営＞

- ・ 陽和台第3 住宅管理組合・自治会
管理組合・自治会統合を統合した。役回りが少なくなり（50 人→25 人）、会議も効率化している。連合自治会は抜けたが、自治会で夏祭りも開催できている。
- ・ 陽和北自治会
自治会の加入率が下がっている。統合の話もあるが、合意形成難しい

2 班 ①生活を支える「移動」の問題		
課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【要介護前の方の移動手段に対する問題】 ・75 才以上の人が増えてきたら移動手段がなく困る人が増えてくる。 ・介護保険を使うまでではないけど、移動に不自由な人の移動手段をどうするかが課題である。	○移動に困っている人を具体的に把握する（誰が、どのような目的の移動に困っているか）。	<移動に困る人、困っている人の把握> ・どれぐらい困る人が増えるのか実態をみる
【買い物・通院に対する問題】 ・買い物するのが不便。移動販売があればいいが、 ・地域内に病院がなく不便である。	○地域内の交通手段を確保する方法を考える	<いろいろな人・組織から助けを借り買い物をする> ・介護保険事業でヘルパーさんを買ってきてもらう。 ・ツジトミなどの移動販売があればいい。 ・福祉委員会でツジトミで買ったものの配達サービスを実施している。 - 事前にツジトミに電話注文して、配達する形ができればいい。 - ツジトミ直営での配達難しいと言われている。
【路線バスの利便性に対する問題】 ・通勤する人が減っているので、路線バス利用者が減っている。その結果、運行頻度など利便性も低下している。		<地域内の交通手段を導入する> ・地域内の交通手段がほしい。一回 100 円かかっても乗ると思う。 ・バス停までの交通手段が必要な状況である。坂もあるのできめ細やかな停留所がほしい。 ・買い物、通院、コミセンなど、目的を明確にした交通手段があれば使いやすくないではないか。 ・路線バスの利用者をとらないような形で導入する必要がある。 ・デマンド型交通がいいのではないか。
		<いろいろな人・組織から助けを借り移動手段を確保する> ・介護保険事業所を運営している社会福祉法人の車に混乗させてもらう。 ・学習塾が運行しているバスに混乗させてもらう。 ・店舗に買い物用の巡回バスを運行してもらう。
		<地域ボランティアによる地域内交通の導入> ・地域ボランティアによる地域内交通が導入できればいい。 - 以前取り組んでいたが、ボランティアでは続かない。継続させられる方法を考えていく必要がある。 - 実施する際の車両購入費も課題である。
		<活動を支える仕組みの検討> ・会員制にして、みんなで支える意識をもってもらう。 ・店舗や病院などスポンサーを募り、支えてもらう ・行政によるサポートはやはりほしい。

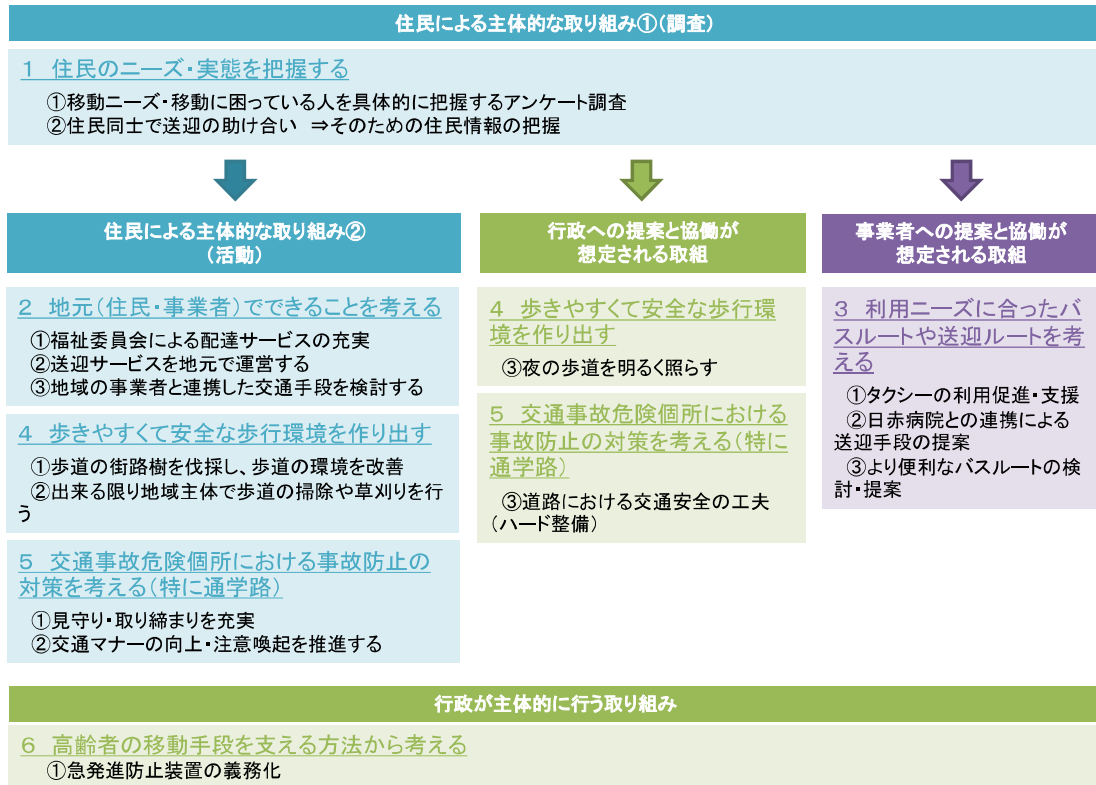
3 班 ②道路・交通の安全・安心の問題		
課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【歩道の環境に対する問題】 ・街路樹が歩道脇に植わっているため、1)歩行空間が狭い、2)自動車から歩道への見通しが悪い、という問題がある。 ・街灯が少なく、夜になると暗くて歩きづらい。 ・秋になると落ち葉が多く、掃除が大変。 ・草刈りは 1 年に 1 回しかなく伸び放題になっており、歩道が狭くなっている。地域で草刈りはしているものの、住宅地の中だけであり、歩道部分の草刈りはできていない。 ・坂道の凸凹・陥没穴・根上がりなどが補修されずに放置されており、歩きにくい。	○歩きやすく安全な歩行環境を作り出す	<歩道の街路樹を伐採（または植え替え）し、歩道の環境を改善する> ・街路樹を残すことと歩道の安全確保の両立は困難である。そのため、例えば思い切って歩道は安全確保に特化させ、街路樹を伐採する。 ・自動車が入らない遊歩道（散策路）の街路樹は伐採せず、歩いて楽しい空間をまに残す。 ・常緑樹へ植え替える。その際は背丈の低い街路樹を選び、自動車からの視認性を高める。 ・歩道を広くしてもらえるように市にお願いする。
【交通事故危険箇所に対する問題】 ・信号の無いところは自動車がスピードを出しがち。 ・運転手のマナーが良くない。 ・サニー幼稚園前は特にヒヤットすることが多く改善が必要。	○交通事故危険箇所における事故防止の対策を考える（特に通学路）	<出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う> ・少なくとも通学路だけは地域で協力して掃除を行う。 ・草刈りをしてくれるボランティアを募る。（難しい場合は市に草刈りの回数を増やしてもらう） ・地域でお金を出し合い、シルバー人材センターを活用して人員を確保する。 ・グラウンドカバーになる植物を検討する。 ・除草跡や地割れ部分を補修材で埋め、再び生えにくくする。 ・陥没穴など地域で対応しにくいものは市にお願いする。
		<夜の歩道を明るく照らす> ・歩道に蓄光式タイルや太陽光発電のライトを設置する。
		<通学路の安全性を高める> ・信号のない横断歩道において、時々警察の方に取っ組み合いをしてもらう。 ・通学路の表示を明記し、周知を徹底する。 ・地域見守り隊のメンバーをもっと増やすために周知活動の力を入れる。その際、ラジオ体操グループとの連携も検討する。 ・危険マップをつくる（ヒヤット、事故があったところ）。 ・飛び出し坊やを新たに追加する。PTA だけでは人手が足りないので子供たちと WS 形式で製作する。その際、子ども達に交通マナーを教えることもセットで行う。 ・三叉路ではカーブミラーを設置する。 ・自動車のスピードを落とす工夫として意図的に段差を設ける。（周辺住宅への騒音問題は事前に検討しておく必要がある）

4 班 ③交通マナー等の問題		
課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【自動車の交通マナーに対する問題】 ●地域外(新名神)から来る車のマナーが悪い ・地域外の人がスピードを出していることが多い ・流通センターが増えて車が多くなっている ・桑ノ原から入る道に（T 字路）止まらない車がある ・見えづらい交差点で事故がある。慣れていないと危ない。 ●住民もルールを守っていない場合がある ・スピードを出す車が昔より多くなった ・“止まれ”の看板を無視する車がある（デイクアの前など） ・保育園前ロータリーでウインカーを出さない車がある 【自転車の交通マナーに対する問題】 ・自転車道が上手く使えていないため、マナーの向上もしっかり指導してほしい。 ・電動アシスト付き自転車の普及により、自転車通勤、通学者が増えている。坂道の多い地域なので下り坂のスピードの出し過ぎに注意してほしい ・左側通行が徹底されていない 【高齢者の運転に対する問題】 ・免許返上をすると買い物ができなくなるため、運転免許証返上した場合に生活するための対策を考える必要がある。 ・高齢者の自動車事故も実際にある	○外部交通のマナー対策を行う必要がある ○住民のマナー向上を目指す必要がある。 ○住民のマナー向上を目指す必要がある。（再掲） ○高齢者の移動手段を支える方法から考える必要がある。	＜必要な場所に看板を設置する＞ ・外部交通に対するマナー啓発の看板が必要ではないか。 ＜学校付近の交通ルールについて注意喚起を行う＞ ・学校付近の交通の注意喚起をする（特に昼・夕方）。 ・現在も子どもの見守りをしている方がいる。 ・事故が起こりそうな危険な箇所について、組織としては共有できていない。 ＜自治会単位でルールの徹底を呼び掛ける＞ ・自治会単位で啓蒙活動をする。ポスティングで参加を促す（別の取組の際に効果があった）。 ・ルールを守っていない人の多くは取組に参加しない可能性が高いため、それらの人に伝える工夫が必要 ・学校では自転車教室を実施している。大人向けにも自転車教室を実施するなど。 ＜高齢者が運転する際の事故を防ぐ＞ ・高齢者運転(75 歳以上) 急発進防止装置の義務化を行う。 ＜高齢者の移動手段を手助けする＞ ・スーパーの帰りに、知り合いの高齢の方がいたら送っていくようにしているが、人を乗せるのは怖い、という人もいる。 ・自動運転の活用を将来的にできないか。

山手台 移動・交通に関する検討候補一覧（第2回WSの意見の整理）

	項目	やること
1	必要な地域交通を検討するうえで、住民のニーズ・実態を把握する	① 移動ニーズ・移動に困っている人を具体的に把握するアンケート調査
		② 住民同士で送迎の助け合い ⇒そのための住民情報の把握
2	バス・タクシー事業者だけでなく、地元(住民・事業者)のできることを考える	① 福祉委員会による配達サービスの充実
		② 送迎サービスを地元で運営する
		③ 地域の事業者と連携した交通手段を検討する
3	利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える	① タクシーの利用促進・支援
		② 日赤病院との連携による送迎手段の提案
		③ より便利なバスルートの検討・提案
4	歩きやすく安全な歩行環境を作り出す	① 歩道の街路樹を伐採(または植え替え)し、歩道の環境を改善
		② 出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う
		③ 夜の歩道を明るく照らす
5	交通事故危険個所における事故防止の対策を考える(特に通学路)	① 見守り・取り締まりを充実
		② 交通マナーの向上・注意喚起を推進する
		③ 道路における交通安全の工夫(ハード整備)
6	高齢者の移動手段を支える方法から考える	① 急発進防止装置の義務化

山手台における今後の取組の主体別分類イメージ



第3回ワークショップのまとめ

- 第3回はこれまで話し合ったことをもとに、次ページ以降のテーマを設定して、山手台校区で地域の交通に関する「取組を実現するためのスケジュールやアクション」を整理。
- ワークショップでは、具体的に「やるべきことは何か」「できることは何か」という視点で優先順位考え、そのために必要な「もの」や「こと」についての検討



第3回目の検討テーマ

検討テーマ1

山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するためのアクションと仕組みを考える。

検討テーマ2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするためのアクションを考える。

検討テーマ3

山手台での交通事故がなくなることを目指したアクションを考える。

検討テーマ1

山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するための
アクションと仕組みを考える。

まず、ニーズ調査をして、本当に必要な「移動」を考える

「誰が」「どこに行くための」「どんな交通手段」を必要としているのか。

「利用してもらわなければ成り立たない」

⇒ **どんな人が、どんな時に困っているのか？**

「利用ニーズを掘り起こさなければ成り立たない」

⇒ **活動・暮らしがなければ移動ニーズは高まらない**

自分たちでできることから取り組んでみることを考える

ニーズを踏まえて、どんなことなら自分たちでできるのか。

「自分たちでできることを考えなければできない」

⇒ **何ができるのか**

「担い手がいなければ成り立たない」

⇒ **誰がやるのか**

検討テーマ1

山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するための
アクションと仕組みを考える。

自分たちではできない部分について事業者との連携を考える

事業者にとってもメリットのある事業とすることができるのか。

「お金やメリットがなければ続かない」

⇒ **事業としての持続性は？**

過去に行った取り組みや、現在
行っている活動などで、わかっ
ていることはまず確認してみよう！

介護？ 通勤？
通院？ 寄合？
買物？



検討テーマ2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするための
アクションを考える。

■優先順位の考え方

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	☆ すぐやることを考えよう	◎ 地域の中でも相談しながら 進めよう
行政との協働 で 取り組むこと	◎ 行政とも協議しながら進めよう	○ 行政とも相談しながら 可能性と進め方を確認しよう

検討テーマ2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするための
アクションを考える。

■参考に・・・第2回WSのアイデアを整理してみたら・・・

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	■通学路だけは地域で協力して掃除を行う。 ■草刈りをしてくれるボランティアを募る。	■地域でお金を出し合い、シルバー人材センターを活用して人員を確保する。
行政との協働 で 取り組むこと	■除草跡や地割れ部分を補修材で埋め、再び生えにくくする。 ■陥没穴など地域で対応しにくいものは市にお願いする。	■歩道の街路樹伐採・常緑樹への植え替え (自動車が入らない遊歩道の街路樹は伐採せず、歩いて楽しい空間をまちに残す。など、考え方を整理して、行政とも相談する必要がある) ■草刈りの必要性が低くなる植栽(グランドカバー)への植え替え ■歩道を広くする ■歩道に蓄光式タイルや太陽光発電のライトを設置する。

検討テーマ3

山手台での交通事故がなくなることを目指した
アクションを考える。

■優先順位の考え方

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	☆ すぐやることを考えよう	◎ 地域の中でも相談しながら 進めよう
行政との協働 で 取り組むこと	◎ 行政とも協議しながら進めよう	○ 行政とも相談しながら 可能性と進め方を確認しよう

検討テーマ3

山手台での交通事故がなくなることを目指した
アクションを考える。

■参考に・・・第2回WSのアイデアを整理してみたら・・・

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	■地域見守り隊のメンバーをもっと増やすために周知活動の力を入れる。(ラジオ体操グループとの連携も検討) ■通学路の表示を明記し、周知を徹底する。 ■外部交通に対するマナー啓発の看板設置。 ■飛び出し坊やをPTAと子供たちとでWS形式で製作して追加する。(子ども達に交通マナーを教えることもセット) ■事故が起こりそうな危険箇所を組織で共有。 ■危険マップをつくる(ヒヤット、事故があったところ)。 ■自治会単位で啓蒙活動をする。 ■学校で行われているように、大人向けにも自転車教室を実施する。	■ルールを守っていない人の多くは取組に参加しない可能性が高いため、それらの人に伝える工夫が必要
行政との協働 で 取り組むこと	■信号のない横断歩道において、時々警察の方に取り締まりをしてもらう。	■三叉路でカーブミラーを設置する。 ■自動車のスピードを落とす工夫として意図的に段差を設ける。(周辺住宅への騒音問題には配慮)

第3回ワークショップで出された班ごとの意見

検討チーム 1 山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するためのアクションと仕組みを考える。

やること	住民のニーズ・移動のお困りごとの把握＝住民アンケート	タクシーの乗り合い移動の啓発	タクシー乗り合いマッチングの仕組み・センターづくり	日赤病院とのコミュニケーション
具体的なアイデア・視点	・お困りごとが異なるため、個別対応が必要になるはず。把握できれば、まずは住民同士の助け合いでなんとかなることもある。 ・何人くらいどのように困っているのか把握するアンケートが必要。 →タクシー移動ニーズを把握するために以下のことを調査し、仕組みづくりやタクシー事業者との交渉に活用する。 「普段の買い物移動手段」 「タクシーに替えることも検討できるか」	・ドア to ドアの移動がいずれ必要になってくる。その際はタクシーの乗合が適切な方法。 ①車所有よりタクシー利用の方が効率的でリーズナブルであることを伝える。 ・アンケートを通じて提案する ・費用等を検証する	①タクシー事業者に提案・相談する（アンケート結果等も参考に） ②ツジトミにタクシー配車拠点を用意してもらう。 ③送る人・乗る人のマッチングの仕組みづくり ・定期的に移動する人（送る人）と移動したい人が登録しておく ・移動する予定を登録し、一緒に乗りたい人を募集し、乗りたい人が希望を伝えられるような仕組み ・これらを運営するマッチングセンター機能をつくる。	①日赤負担でのタクシー通院が始まったが、正しい情報が広く周知されていない。（まち医者から日赤への紹介時には日赤負担でタクシーで通院できると聞いた） →タクシー利用通院（日赤負担）のサービスについて正しい情報を把握する。自治会などを通して、正しい情報を住民に周知する。 ②日赤とまち医者とのコミュニケーションを進めてもらう。
必要なもの・こと・ひと・かね・支援など		・自治会や連合会、福祉委員会は忙しい→新たな組織づくりが必要 ・65～75 歳は担い手として期待できる人、数がいる		①日赤病院、茨木市のタクシー事業者 ②日赤病院、まち医者、医師会
最初の一步	・アンケートの検討	・検討するメンバーを集める、検討会づくり ・アンケートで「できる人・やりたい人」を見つける		

第3回ワークショップで出された班ごとの意見

検討チーム 2 山手台での交通事故がなくなることを目指したアクションを考える。

やること	防災を含めたマップづくり	子どもの見守り	きめ細かい啓発活動を行う
具体的なアイデア・視点	●立場によって危険だと感じる場所に違いがある。 ・よく知っている各自治会単位で作成するとよい。 ・小学校の交通教室で子どもたちが気になっていることを確認する。 ・小学生の見守り隊に、参加してもらい、活動の中で感じている危険箇所を把握する。 ●危険な箇所の一例 ・歩道の根上がり ・バスに乗るときに横断歩道がない ・自動車がスピードを出しやすい箇所 ・坂が多い地域であり、その特徴を踏まえたマップをつくるとよいのではないか。	・普段から子どもに会ったら見たら声をかけられる関係づくりが大切。 ・朝散歩している高齢者が多くいるため、散歩の時間を通学時間に合わせることで自然と見守りができるのではないかな。 ・毎朝、ラジオ体操をしている方にも協力してもらえるのではないかな。	・徒歩・自転車・自動車それぞれの立場で考えることが大切。 ・自転車のルールはまだまだしっかりと認知されていないため、ルールを周知する教室を開催するとよいのではないかな。
必要なもの・こと・ひと・かね・支援など	・お母さん世代が感じている課題を確認するには？ →PTA と協力する ・中高生の意見を聞くには？ →山手台フェスティバルで意見を募集する。	・小学校では集団登校しているが、生徒が少なくなっているため、集合場所までの見守りが必要ではないかな。	
最初の一步	・自治会の役員でマップを一度つくる →まとめたものをともに小学校などで追記してもらう。		
その他	・将来的なハード整備につなげられるとよい。 ・5丁目では道路白線が消えている箇所を取りまとめた地図を作成し、市に要望したことがある。	・外部の人は通学路を知らないため、注意が必要。 ・通学路の表示が少ない	

第3回ワークショップで出された班ごとの意見

検討チーム 3 山手台が今よりも歩きやすいまちとするためのアクションを考える。

やること	落ち葉拾い（地域清掃）
具体的なアイデア・視点	- 歩きやすいまちの条件を次の3つに設定する。 1. 歩道の幅が広い 2. 道に凹凸が少ない 3. 夜でも道が明るい - 山手台全エリアを対象とするのは現実的ではないため、通学路または買い物で良く使う道を重点エリアにする。 - 銀杏拾いも兼ねてイベント化する。
必要なもの・こと・ひと・かね・支援など	- 困っているということを周りに伝え、問題をみんなで共有する。 - 元気なお年寄りに協力してもらう。 - 協議会から人件費等のお金を出せる仕組みをつくる。
スケジュール（いつ・どの順番ですずめるか）	1 年中継続して続けるのは疲れるため、特に歩道を掃除する必要のある「桜の季節」と「銀杏の季節」の2回を対象として初めてみる。→今年の4月をまずは1回目として始めてみる。
最初の一步	どれだけ大変な作業なのか、または意外と楽な作業なのかを知るために、まずは集まって作業をしてみる。
参加者	ラジオ体操に参加している人が30~40人程度いるので、声をかけてみる。（ラジオ体操終了後落ち葉拾いをしてもらって解散が理想。）
その他	- どこまで歩道を綺麗にするのかなど、現実的な状態をイメージする必要がある。 - 新町の歩道は広くて平らでLEDが組み込まれており、夜は明るい。

地域活動の活性化に向けたワークショップ

〔山手台校区〕

全3回ワークショップをふまえた 今後について

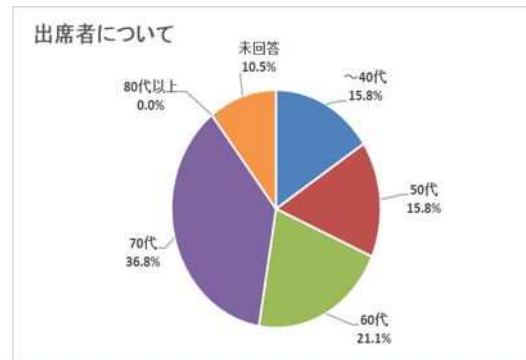
- 校区として顕在化している課題が「地域交通」であるとの認識のもと、「交通・移動」をテーマとしてワークショップを開催したが、多様な世代や立場の住民や団体同士が、共通のテーマで話し合い、年代や立場が違っても、異なる課題認識を持っていることが参加者同士で認識できたことが重要であった。
- また、具体的なアクションを考える中で、「行政」にお願いする部分、「住民主体」で取り組むべき部分、「協働」で取り組むべき部分があることを認識することができた。

- ワークショップで出された地域交通に関する課題とアイデアを踏まえ、校区で取り組むべきことをスタートさせていくために、市の支援も受けながら校区協議会等における話し合いを継続していくことが必要である。
- 例えば、「交通・移動に関するニーズを把握するためのアンケート調査」、「交通安全に関する啓発活動(マップ作り等)」「歩道の草刈り」など、地域主体ですぐにでも取り組めることに関しては、具体的なアクションを展開するための話し合いを進めていく。

地域活動の活性化に向けたワークショップ アンケート集計(山手台)

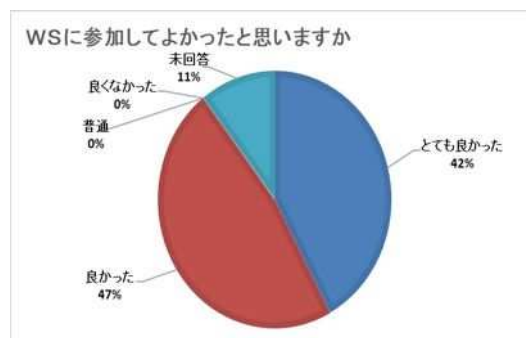
問1 出席者について

問 1	回答数
～40代	3
50代	3
60代	4
70代	7
80代以上	0
未回答	2



問2 ワークショップに参加して良かったと思いますか。

問 2	回答数
とても良かった	8
良かった	9
普通	0
良くなかった	0
未回答	2

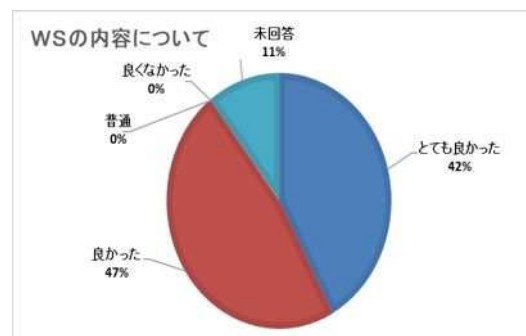


【理由】

- ①山手台の中でも知らない事が多くあったので。
- ②いろいろな意見が聞けた。
- ③色々な意見を聞く事ができた。
- ④他の丁目の人とも話し合えてよかった。
- ⑤全体のことがわかった。
- ⑥知らない事があった。
- ⑦それぞれの方が考えている事を文字におこしてみると考えが整理できますネ。
- ⑧他の丁目の方の意見も聞けたこと。

問3 ワークショップの内容について

問 3	回答数
とても良かった	8
良かった	9
普通	0
良くなかった	0
未回答	2

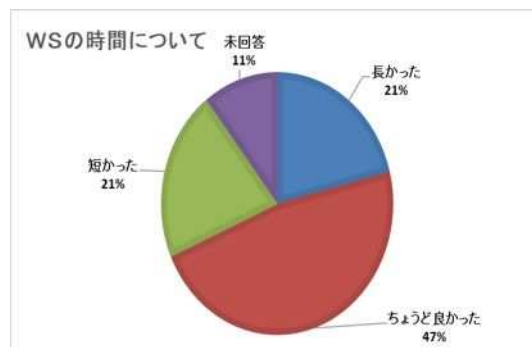


【理由】

- ①具体的に進む可能性がうかがえた。
- ②交通に関しては気になっていた。
- ③考え方の多様性を見られた。
- ④問題点の掘り起こしが出来た(共有)。

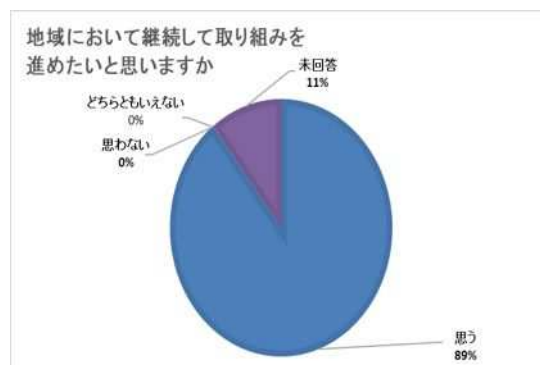
問4 ワークショップの時間について

問4	回答数
長 か っ た	4
ちょうど良かった	9
短 か っ た	4
未 回 答	2



問5 今回のワークショップの経験を生かして、地域において継続して取組を進めたいと思いますか。

問5	回答数
思 う	17
どちらともいえない	0
思 わ な い	0
未 回 答	2



問6 今回のワークショップ以外に取り上げたいテーマがあればお聞かせください。

- ①防災関連
- ②防災について
- ③健康長寿の検討
- ④高齢化が進んだ(他の)町の対応
- ⑤高齢者について
- ⑥今後の10年先を考える事
- ⑦老老介護が増えてきている、支援方法はないか。
- ⑧防災活動について
- ⑨認可地縁団体と集会所について
- ⑩引きこもり、不登校への地域ケア

問7 ワークショップの感想などをお聞かせください。

- ①参加しやすい時間帯にお願い致します。
- ②住民以外の方々の紹介を最初にさせていただいたかったです。
ファシリテーターの方に大変お世話になりました。
- ③テーマをしぼって多くの方が話しあえてよかった。
- ④ワークショップで新しく出会いがあった事もよかったと思います。
- ⑤実際に実践できるのか、まとまったかどうか、など疑問を感じる所もあった。
- ⑥第1～第2回の積みかさねをどう生かしていくのかという点には課題を少し感じました。
- ⑦考えないといけない事がたくさんあるなと思いました。
- ⑧皆様よく頑張ったと思います。
- ⑨これからも続けていってほしい。
- ⑩職員の皆様、夜9時30分迄ご勤務下さり有難うございました。
- ⑪いつも遅くまで職員の皆さまお疲れ様です！。
- ⑫もう少し子育て世代の方も参加してほしかった。

参考資料

ワークショップ当日資料等

地域活動の活性化に向けたワークショップ

[山手台校区]

山手台のまちにおいて、
「移動」「地域交通」に関して
「困っていること」を出し合おう！

第 1 回

2019年9月19日（木）19:30-21:00



地域活動の活性化に向けたワークショップ

[山手台校区]

ワークショップ開催の目的

地域コミュニティの現状

【背景】

- 少子高齢化に伴う人口減少や人口構造の変化
- 人々の価値観の変化
- ライフスタイルの多様化
- 核家族化、単身世帯や共働き世帯の増加



【現状（課題）】

- 自治会加入率の低下（約60%）
- 高齢化による担い手不足
- 自治会等の役員就任への負担感
- 地域活動に対する負担感





【影響】

- 自治会等への未加入や脱会
- 防犯、防災、福祉、環境などの自治会機能が縮小

「安全・安心で住みよいまちづくり」
への影響が懸念される。

そこで！！



■ワークショップ対象及び目標

○地域自治組織結成校区

地域コミュニティ基本指針

⇒「地域が主体的に行う取組」の一つである
「協議の場づくり」として実施。

目標「人材の育成、地域活動の活性化」

○地域自治組織未結成校区

地域コミュニティ基本指針

⇒「地域が主体的に行う取組」の一つである
「地域自治組織づくり」として実施。

目標「担い手の充実、活動への参画」



ワークショップ 全3回の流れ

第1回	山手台のまちにおいて、「移動」「地域交通」に関して「困っていること」を出し合おう	9/19 (木)
第2回	課題別に対策案を考えてみよう！	10～11月
第3回	取組を実現するためのスケジュールやアクションを考えよう	2月頃



本日の目的

高齢化が進む山手台における
「地域交通」をメインテーマとした地域課題の共有と、
その解決に向けた方向性の検討

●お互いを知る

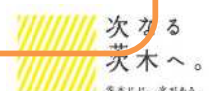
・校区のまちづくりに関わる住民同士でお互いのことを知ろう。

●校区のこれからを考える

・校区のこれからのこと・思いを出し合い、取り組めること・取り組みたいことを話し合い、考え、整理しよう。

●話し合う場を楽しむ

・みんなで「話し合う」場を経験してみよう・楽しもう。



本日の進行

- 19:30- 趣旨説明など
- 19:40- 参加者全員
(アイスブレイク ～手挙げアンケート～)
- 19:45- グループに分かれて (自己紹介)
- 20:55- そのままグループで (活動紹介)
- 20:45- 全体で話したこと・感想を共有
- 21:00- まとめ



話し合いで大切にしたいこと

1. みんなの話は反対せずフムフムと聞こう
2. 自分の話は簡潔にサクサクと話そう
3. 思っていることをドンドン出そう
4. みんなで力を合わせてワイワイ盛り上がろう
5. 楽しくニコニコと参加しよう

グループにはファシリテーターと呼ばれる、話し合いのサポート役がいます。
(話をしやすい場にしたり、整理したり、より良い話し合いを促す人です)



全体でアイスブレイク

今からいくつかの質問をしますので、色紙を挙げてお答えください



山手台に何年住んでる？

30年以上

20年以上30年未満

10年以上20年未満

10年未満



通勤手段は？

バス

自家用車

徒歩・自転車

通勤していない・その他



普段の買い物で最も多いのは？

近隣のお店（ツジトミなど）

山手台以外の市内のお店

市外のお店

ネット・通販など



最近バスに乗りましたか??

1週間以内に乘った

1ヶ月以内に乘った

1年以内に乘った

乗ってないな～



山手台のいいところは?

静かな住環境

豊かな自然環境

人のつながり・コミュニティ

その他



グループに分かれて話そう

自己紹介

①所属団体等

②名前

③好きな○○○



みんなで地域づくりをやっていくための 話し合い・対話の場の工夫

会議に参加する人の気分などはその時・それぞれ
初めて出会う人同士ならどうしても緊張する

①アイスブレイク（場を和ませる・柔らかくする）

- ・知っている仲でも自己紹介
- ・身体を動かしてみる
- ・どんな人がいるか知る機会をつくる

会議では聞くばかり（言いたいことあっても）
決まった人しか話せない・・・

②意見や考えを言いやすい場づくり

- ・全体で話し合わずに少人数で一度話してみる
- ・お茶やお菓子を置いてみる
- ・1人ひとりが考えを書いてみる
- ・会議の机のレイアウト・並びを変えてみる
- ・資料説明する人と会議を進行する人を分けてみる

次回（第2回）予定

今日話し合ったまちの課題をもとに・・・
対策案について考えてみよう

2019年10月__日（__）
____時 ～ ____時



所属・役職など

名 前

課題ポイントの例示シート

- 通勤・通学・買い物・通院などで不便だと思ふ点
- 交通、通学路の安全面で気になること
- 日常生活の中で移動することについての気になる点
- 高齢者の移動・運転などについて気になること
- 交通事故や危険だと思ふ箇所について
- その他

2 班 ①生活を支える「移動」の問題

課題点 【要介護前の方の移動手段の確保】 ・75 才以上の人が増えてきたら移動手段がなく困る人が増えてくる。 ・介護保険を使うまでではないけど、移動に不自由な人の移動手段をどうするかが課題である。 【買い物・通院が不便】 ・買い物するのが不便。移動販売があればいいが。 ・地域内に病院がなく不便である。 【路線バスの利便性が低い】 ・通勤する人が減っているので、路線バス利用者が減っている。その結果、運行頻度など利便性も低下している。	検討すべきポイント ○移動に困っている人を具体的に把握する（誰が、どのような目的の移動に困っているか）。 ○地域内の交通手段を確保する方法を考える	アイデア（やり方含む） <移動に困る人、困っている人の把握> ・どれぐらい困る人が増えるのか実態をみる <いろいろな人・組織から助けを借り買い物をする> ・介護保険事業でヘルパーさんを買ってきてもらう。 ・ツジトミなどの移動販売があればいい。 ・福祉委員会でツジトミで買ったものの配達サービスを実施している。 - 事前にツジトミに電話注文して、配達する形ができればいい。 - ツジトミ直営での配達には難しいと言われている。 <地域内の交通手段を導入する> ・地域内の交通手段がほしい。一回 100 円かかっても乗ると思う。 ・バス停までの交通手段が必要な状況である。坂もあるのできめ細やかな停留所がほしい。 ・買い物、通院、コミセンなど、目的を明確にした交通手段があれば使いやすいのではないかと。 ・路線バスの利用者をとらないような形で導入する必要がある。 ・デマンド型交通がいいのではないかと。 <いろいろな人・組織から助けを借り移動手段を確保する> ・介護保険事業所を運営している社会福祉法人の車に混乗させてもらう。 ・学習塾が運行しているバスに混乗させてもらう。 ・店舗に買い物用の巡回バスを運行してもらう。 <地域ボランティアによる地域内交通の導入> ・地域ボランティアによる地域内交通が導入できればいい。 - 以前取り組んでいたが、ボランティアでは続かない。継続させられる方法を考えていく必要がある。 - 実施する際の車両購入費も課題である。 <活動を支える仕組みの検討> ・会員制にして、みんなで支える意識をもってもら。 ・店舗や病院などスポンサーを募り、支えてもらう ・行政によるサポートはやはりほしい。
---	---	---

3 班 ②道路・交通の安心・安全の問題

課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【歩道の環境が悪い】 ・ 街路樹が歩道脇に植わっているため、1)歩行空間が狭い、2)自動車から歩道への見通しが悪い、という問題がある。 ・ 街灯が少なく、夜になると暗くて歩きづらい。 ・ 秋になると落ち葉が多く、掃除が大変。 ・ 草刈りは1年に1回しかなく伸び放題になっており、歩道が狭くなっている。地域で草刈りはしているものの、住宅地の中だけであり、歩道部分の草刈りはできていない。 ・ 坂道の凸凹・陥没穴・根上がりなどが補修されずに放置されており、歩きにくい。 【交通事故危険個所の存在】 ・ 信号の無いところは自動車がスピードを出しがち。 ・ 運転手のマナーが良くない。 ・ サニー幼稚園前は特にヒヤットすることが多く改善が必要。	○歩きやすくして安全な歩行環境を作り出す ○交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）	＜歩道の街路樹を伐採（または植え替え）し、歩道の環境を改善する＞ ・ 街路樹を残すことと歩道の安全確保の両立は困難である。そのため、例えば思い切った歩道は安全確保に特化させ、街路樹を伐採する。 ・ 自動車が入らない遊歩道（散策路）の街路樹は伐採せず、歩いて楽しい空間をまちに残す。 ・ 常緑樹へ植え替える。その際は背丈の低い街路樹を選び、自動車からの視認性を高める。 ・ 歩道を広くしてもらえるように市に願ひする。 ＜出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う＞ ・ 少なくとも通学路だけは地域で協力して掃除を行う。 ・ 草刈りをしてくれるボランティアを募る。（難しい場合は市に草刈りの回数を増やしてもらう） ・ 地域でお金を出し合い、シルバー人材センターを活用して人員を確保する。 ・ グランドカバーになる植物を検討する。 ・ 除草跡や地割れ部分を補修材で埋め、再び生えにくくする。 ・ 陥没穴など地域で対応しにくいものは市に願ひする。 ＜夜の歩道を明るく照らす＞ ・ 歩道に蓄光式タイルや太陽光発電のライトを設置する。
		＜通学路の安全性を高める＞ ・ 信号のない横断歩道において、時々警察の方に取り締まりをしてもらう。 ・ 通学路の表示を明記し、周知を徹底する。 ・ 地域見守り隊のメンバーをもっと増やすために周知活動の力を入れる。その際、ラジオ体操グループとの連携も検討する。 ・ 危険マップをつくる（ヒヤット、事故があったところ）。 ・ 飛び出し坊やを新たに追加する。PTA だけでは人手が足りないので子供たちとWS 形式で製作する。その際、子ども達に交通マナーを教えることもセットで行う。 ・ 三叉路ではカーブミラーを設置する。 ・ 自動車のスピードを落とす工夫として意図的に段差を設ける。（周辺住宅への騒音問題は事前に検討しておく必要がある）

地域活動の活性化に向けたワークショップ

[山手台校区]

山手台のまちにおいて、
「移動」「地域交通」に関して
課題別に対策案を考えてみよう！

第 2 回

2019年11月21日（木）19:30-21:00



地域活動の活性化に向けたワークショップ

[山手台校区]

ワークショップ 全 3 回の流れ

第 1 回	山手台のまちにおいて、「移動」「地域交通」に関して「困っていること」を出し合おう	9/19 (木)
第 2 回	課題別に対策案を考えてみよう！	11/21 (木)
第 3 回	取組を実現するためのスケジュールやアクションを考えよう	2月頃



本日の目的

高齢化が進む山手台における
「地域交通」の課題をみんなで確認し合って、
その解決に向けたアイデアを出し合おう！

●みんなが考えていることを出し合うことで生まれる

相乗効果を感じよう

・まちの課題を解決するために、いろんな立場、いろんな年代の方々の考え方を出し合うことで、多くのアイデアが生まれてきます。

●課題を共有した上で話し合うことの大切さを感じよう

・みんなで出し合ったまちの課題を、みんなで共有することで、本当に必要な取組をじっくり考える視点が生まれてきます。



本日の進行

19:30- 趣旨説明など

19:40- 参加者全員（アイスブレイク）

19:45- おさらい・グループ分け（自己紹介）

20:00- 課題の確認

+ 解決に向けたアイデアについて

意見交換

20:45- 全体で話したこと・感想を共有

21:00- まとめ



全体でアイスブレイク

今からいくつかの質問をしますので、色紙を挙げてお答えください

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

アイスブレイク

その場で
アンケート

問1 一日何歩、歩きますか？

①1万歩未満

②1万歩以上

③わからない



アイスブレイク

その場で
アンケート

問 2 健康に気をつけた 行動をしていますか？

①食事には気をつけている

②運動をするようにしている

③していない



アイスブレイク

その場で
アンケート

問 3 車・自転車を運転する方に・ 交通マナーで心がけている ことはありますか？

①住宅地の中はゆっくりと

②通学路は気をつける

③交差点は細心の注意を



前回のおさらい

①生活を支える「移動」の問題

- ・買い物しやすくするために
- ・通院しやすくするために
- ・山手台の中での移動をしやすくするために

②道路・交通の安心・安全の問題

- ・歩道の道路環境（草・陥没など）
- ・交通事故の危険のある箇所
- ・通学路の危険箇所

③交通マナー等の問題

- ・自動車の交通マナー
- ・自転車の交通マナー
- ・高齢者の運転の問題

④その他のまちづくり課題

- ・コミュニティの希薄化
- ・ペットのマナー問題
- ・子どもの遊び場不足
- ・その他（住まい・定住・高齢者の暮らしなど？）

■第1回ワークショップで各班から出た意見の整理

①生活を支える「移動」の問題

課題の分類	課題内容
バス便の不便	バスの本数が少ない
	運賃が高い
	時間が読めない
	タマホームのバスがなくなった
	実際にバスを使う人は少ないのでは

課題の分類	課題内容
山手台のエリア内での移動がしにくい	バス停までが遠い
	坂が多く、山手台の中の移動大変
	バス停まで子どもを1人で歩かせるのが怖い
	高齢者はバス停までも苦痛のよう
	特に5〜7丁目の方はツジミへの買い物でさえ車がないと大変

課題の分類	課題内容
買い物が不便な問題	ツジミがなくなると困るが、ツジミだけではちょっと足りない
	高齢者の方の普段のお買い物
	坂もありツジミまで行って買えば配達していただけるが足が悪くなれば買い物に行くことさえできない
	買い物は歩いていけない
食料品はツジミがあるから助かるが、日用品となると市内に行かなければならない	

課題の分類	課題内容
通院が不便な問題	通院しにくい
	地域内に病院がないので困る
	病院バス高槻日赤行きも来てほしい
在宅医療の環境にない(地区に病院ない)	

課題の分類	課題内容
交通が不便な結果起る街の問題点	公民館にも来れなくなる
	足がないと外出しなくなる
	車に乗れなくなり中心部に移転出

②道路・交通の安心・安全の問題

課題の分類	課題内容
歩道の道路環境について	歩道が狭い
	全体的に暗い
	雑草・落ち葉が多く、掃除が大変。通行が危ない。
	坂道の凸凹が多い。歩道の根上がり
	一年に一回しか草刈りをしない
	草などすぐに生えて道が狭くなる
	地域で草刈りはしているが住宅地の中だけで道路の草刈りはできていない
横断歩道で陥没穴がある	

課題の分類	課題内容
通学路の危険箇所	小学生の通学路の危険箇所の改善をして欲しい
	通学路子どもの見守りもやっている
	通学路となっている所に横断歩道が無い。中学校の通学路なのに
	通学路スピード速い(車両全て)

課題の分類	課題内容
交通事故危険箇所	ツジミ前から消防署方面への下り坂・信号無視・自転車のスピード
	団地入り口の三叉路
	消防署の三叉路
	番号のない交差点が多いので出金いがしらとこたとも危険

③交通マナー等の問題

課題の分類	課題内容
交通マナーの問題(自動車)	交差点が多く、その都度止まらなくてほしい
	住宅内を走る車が制限速度を守っていない

課題の分類	課題内容
交通マナーの問題(自転車)	サイクリングコースを推奨するならマナーの向上もしっかり指導してほしい。
	電動アシスト付き自転車の普及により、自転車通学、通学者が増えている。坂道の多い地域なので下り坂のスピードの出し過ぎに注意してほしい
	自転車の交通安全

課題の分類	課題内容
高齢者の運転の問題	運転免許返上したら移動が大変そう
	免許返上をすると買い物ができなくなる

④その他のまちづくり課題

課題の分類	課題内容
コミュニティづくりの必要性	2人暮らしは互いに送り迎え
	1人になるとひときこり
	認知症の人が増えてきた
	他人に関心がうすくなってきている
	衰れもなくなってきた

課題の分類	課題内容
ペットのマナー	犬のフンの後しまつてほしい人がいるので困る
	のらねこが多い、フンなどが困る

課題の分類	課題内容
子どもの遊び場が少ない	子供たちの遊び場がすくない
	公園でも「うさぎ！」「ルール多い」

課題の分類	課題内容
モノレールの延伸希望	名神沿いに伸ばしてほしいが...
	モノレールを山手台へ当初計画では山手台に来る予定

本日のグループ分け

1

①生活を支える「移動」の問題
＋
④その他のまちづくり課題

2

②道路・交通の安心・安全の問題
＋
④その他のまちづくり課題

3

③交通マナー等の問題
＋
④その他のまちづくり課題

次なる
次木へ。

（次木には、次がある。）

本日のグループ分け

1 移動

2 安心・
安全

3 マナー

4 ?

5 ?

グループに分かれて話そう

自己紹介

- ①所属団体等
- ②名前
- ③秋といえば・・・



次回（第3回）予定

今日話し合った「対策案」をもとに・・・

取組を実現するための
スケジュールやアクションを考えよう

2020年2月__日（__）
____時 ～ ____時



■第1回ワークショップで各班から出た意見の整理

①生活を支える「移動」の問題

課題の分類	課題内容
バスの不便	バスの本数が少ない
	運賃が高い
	時間が読めない
	タマホームのバスがなくなった
	実際にバスを使う人は少ないのでは

課題の分類	課題内容
山手台のエリア内での移動がしにくい	バス停までが遠い
	坂が多く、山手台の中の移動大変
	バス停まで子どもを1人で歩かせるのが怖い
	高齢者はバス停までも苦痛のよう
	特に5〜7丁目の方はツジミへの買い物でさえ車がないと大変

課題の分類	課題内容
買い物物が不便な問題	ツジミがなくなると困るが、ツジミだけではちよっと足りない
	高齢者の方の普段の買い物坂もありツジミまで行って買えば配達していただけの足が悪くなれば買い物に行くことさえできない
	買い物は歩いていけない
	食料品はツジミがあるので助かるが、日用品となると市内に行かなければならない

課題の分類	課題内容
通院が不便な問題	通院しにくい
	地域内に病院がないので困る
	病院バス高槻日赤行きも来てほしい
	在宅医療の環境にない(地区に病院ない)

課題の分類	課題内容
交通が不便な結果起こる街の問題点	公民館にも来れなくなる
	足がないと外出しなくなる
	車に乗れなくなり中心部に移転出

②道路・交通の安心・安全の問題

課題の分類	課題内容
歩道の道路環境について	歩道が狭い
	全体的に暗い
	雑草・落ち葉が多く、掃除が大変。通行が危ない。
	坂道の凸凹が多い。歩道の横上がり
	一年に一回しか草刈りをしない
	草などすぐに生えて道が狭くなる
	地域で草刈りはしているが住宅地の中だけで道路の草刈りはできていない
	横断歩道で陥没穴がある

課題の分類	課題内容
通学路の危険箇所	小学生の通学路の危険箇所の改善をして欲しい
	通学路子どもの見守りもやっている
	通学路となっている所に横断歩道が無い。中学校の通学路なのに
	通学路スピード速い(車両全て)

課題の分類	課題内容
交通事故危険箇所	ツジミ前から消防署方面への下り坂・信号無視・自転車のスピード
	田地入り口の三叉路
	消防署の三叉路
	信号のない交差点が多いので出会いがしらとかとても危険

③交通マナー等の問題

課題の分類	課題内容
交通マナーの問題(自動車)	交差点が多く、その都度止まらなくては！
	住宅内を走る車が制限速度を守っていない

課題の分類	課題内容
交通マナーの問題(自転車)	サイクリングコースを推奨するならマナーの向上もしっかり指導してほしい
	電動アシスト付き自転車の普及により、自転車通勤、通学者が増えている。坂道の多い地域なので下り坂のスピードの出し過ぎに注意してほしい
	自転車の交通安全

課題の分類	課題内容
高齢者の運転の問題	運転免許証返上したら移動が大変そう
	免許返上をすると買い物ができなくなる

④その他のまちづくり課題

課題の分類	課題内容
コミュニティづくりの必要性	2人暮らしは互いに送り迎え
	1人になるとひきこもり
	認知症の人が増えてきた
	他人に関心がうずくなってきた

課題の分類	課題内容
ペットのマナー	犬のフンの後しまつをしがない人がいるので困る
	のらねこが多い、フンなどが困る

課題の分類	課題内容
子どもの遊び場が少ない	子供たちの遊び場がすくない
	公園でも「うるさい!」「ルール多い」

課題の分類	課題内容
モノレールの延伸希望	名神沿いに伸ばしてほしいが...
	モノレールを山手台へ当初計画では山手台に来る予定

地域活動の活性化に向けたワークショップ

[山手台校区]

山手台のまちにおいて、
「移動」「地域交通」に関して
取組を実現するための
スケジュールやアクションを考えよう

第 3 回

2020年2月20日（木）19:30-21:00



地域活動の活性化に向けたワークショップ

[山手台校区]

ワークショップ 全3回の流れ

第1回	山手台のまちにおいて、「移動」「地域交通」に関して「困っていること」を出し合おう	9/19 (木)
第2回	課題別に対策案を考えてみよう！	11/21 (木)
第3回	取組を実現するためのスケジュールやアクションを考えよう	2/20 (木)



本日の進行

19:30- 趣旨説明など

19:35- 第2回WSの確認＋本日の検討テーマの説明

20:00- テーブル移動 ＋ 個人シートの記入

20:10- 自己紹介 ＋ 意見交換

21:00- 全体で話したこと・感想を共有

21:20- まとめ



山手台 移動・交通に関する検討候補一覧（第2回WSの意見の整理）

	項目	やること
1	必要な地域交通を検討するうえで、住民のニーズ・実態を把握する	① 移動ニーズ・移動に困っている人を具体的に把握するアンケート調査
		② 住民同士で送迎の助け合い ⇒ そのための住民情報の把握
2	バス・タクシー事業者だけでなく、地元（住民・事業者）でできることを考える	① 福祉委員会による配達サービスの充実
		② 送迎サービスを地元で運営する
		③ 地域の事業者と連携した交通手段を検討する
3	利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える	① タクシーの利用促進・支援
		② 日赤病院との連携による送迎手段の提案
		③ より便利なバスルートの検討・提案
4	歩きやすく安全な歩行環境を作り出す	① 歩道の街路樹を伐採（または植え替え）し、歩道の環境を改善
		② 出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う
		③ 夜の歩道を明るく照らす
5	交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）	① 見守り・取り締まりを充実
		② 交通マナーの向上・注意喚起を推進する
		③ 道路における交通安全の工夫（ハード整備）
6	高齢者の移動手段を支える方法から考える	① 急発進防止装置の義務化

本日の目的

これまでに申し出た意見を踏まえ、「地域交通」の課題解決に向けた取り組みについて、どのように進めていくのか考えよう！

●具体的に「やるべきこと」「できること」を優先順位を考えてみよう！

- ・前回までのワークショップで、課題解決に向けた様々なアイデアが出されていますが、すべてのことを一気に取り組むこともできません。
- ・「本当にやるべきことは何か」、「実現できることは何か」、という視点で「優先順位」を考えることで、より具体的に進めていくための話し合いとしましょう。

●必要なものやこと、スケジュール、そして最初の一步を考えよう！

- ・ものごとを始めるときには、必要となる「もの」「こと」を考えると、「最初の一步」を踏み出すことが重要です。
- 例えば、次、いつ集まって、何をするのか、考えてみましょう。

次なる
ステップへ。
※次には、次がある。

山手台における今後の取組の主体別分類イメージ

住民による主体的な取り組み①（調査）

- 1□住民のニーズ・実態を把握する
- ① → 移動ニーズ・移動に困っている人を具体的に把握するアンケート調査
 - ② → 住民同士で送迎の助け合い□⇒そのための住民情報の把握

住民による主体的な取り組み②（活動）

2□地元（住民・事業者）でできることを考える

- ① → 福祉委員会による配達サービスの充実
- ② → 送迎サービスを地元で運営する
- ③ → 地域の事業者と連携した交通手段を検討する

4□歩きやすく安全な歩行環境を作り出す

- ① → 歩道の街路樹を伐採し、歩道の環境を改善
- ② → 出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う

5□交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）

- ① → 見守り・取り締まりを充実
- ② → 交通マナーの向上・注意喚起を推進する

行政への提案と協働が想定される取組

4□歩きやすく安全な歩行環境を作り出す

- ③ → 夜の歩道を明るく照らす

5□交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）

- ③ → 道路における交通安全の工夫（ハード整備）

事業者への提案と協働が想定される取組

3□利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える

- ① → タクシーの利用促進・支援
- ② → 日赤病院との連携による送迎手段の提案
- ③ → より便利なバスルートの検討・提案

行政が主体的に行う取り組み

- 6□高齢者の移動手段を支える方法から考える
- ① → 急発進防止装置の義務化

検討チーム 1

山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するためのアクションと仕組みを考える。

まず、ニーズ調査をして、本当に必要な「移動」を考える

「誰が」「どこに行くための」「どんな交通手段」を必要としているのか。

「利用してもらわなければ成り立たない」

⇒ どんな人が、どんな時に困っているのか？

「利用ニーズを掘り起こさなければ成り立たない」

⇒ 活動・暮らしがなければ移動ニーズは高まらない

自分たちでできることから取り組んでみることを考える

ニーズを踏まえて、どんなことなら自分たちでできるのか。

「自分たちでできることを考えなければできない」

⇒ 何ができるのか

「担い手がいなければ成り立たない」

⇒ 誰がやるのか

検討チーム 1

山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するためのアクションと仕組みを考える。

自分たちではできない部分について事業者との連携を考える

事業者にとってもメリットのある事業とすることができるのか。

「お金やメリットがなければ続かない」

⇒ 事業としての持続性は？

過去に行った取り組みや、現在行っている活動などで、わかっていることはまず確認してみよう！

介護？

通勤？

通院？

寄合？

買物？



検討チーム 2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするための
アクションを考える。

■優先順位の考え方

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	☆ すぐやることを考えよう	◎ 地域の中でも相談しながら 進めよう
行政との協働 で 取り組むこと	◎ 行政とも協議しながら進めよう	○ 行政とも相談しながら 可能性と進め方を確認しよう

検討チーム 2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするための
アクションを考える。

■参考に・・・第2回WSのアイデアを整理してみたら・・・

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	■通学路だけは地域で協力して掃除を行う。 ■草刈りをしてくれるボランティアを募る。	■地域でお金を出し合い、シルバー人材センターを活用して人員を確保する。
行政との協働 で 取り組むこと	■除草跡や地割れ部分を補修材で埋め、再び生えにくくする。 ■陥没穴など地域で対応しにくいものは市にお願いする。	■歩道の街路樹伐採・常緑樹への植え替え (自動車が入らない遊歩道の街路樹は伐採せず、歩いて楽しい空間をまちに残す。など、考え方を整理して、行政とも相談する必要がある) ■草刈りの必要性が低くなる植栽(グランドカバー)への植え替え ■歩道を広くする ■歩道に蓄光式タイルや太陽光発電のライトを設置する。

検討チーム 3

山手台での交通事故がなくなることを目指した
アクションを考える。

■優先順位の考え方

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	☆ すぐやることを考えよう	◎ 地域の中でも相談しながら 進めよう
行政との協働 で 取り組むこと	◎ 行政とも協議しながら進めよう	○ 行政とも相談しながら 可能性と進め方を確認しよう

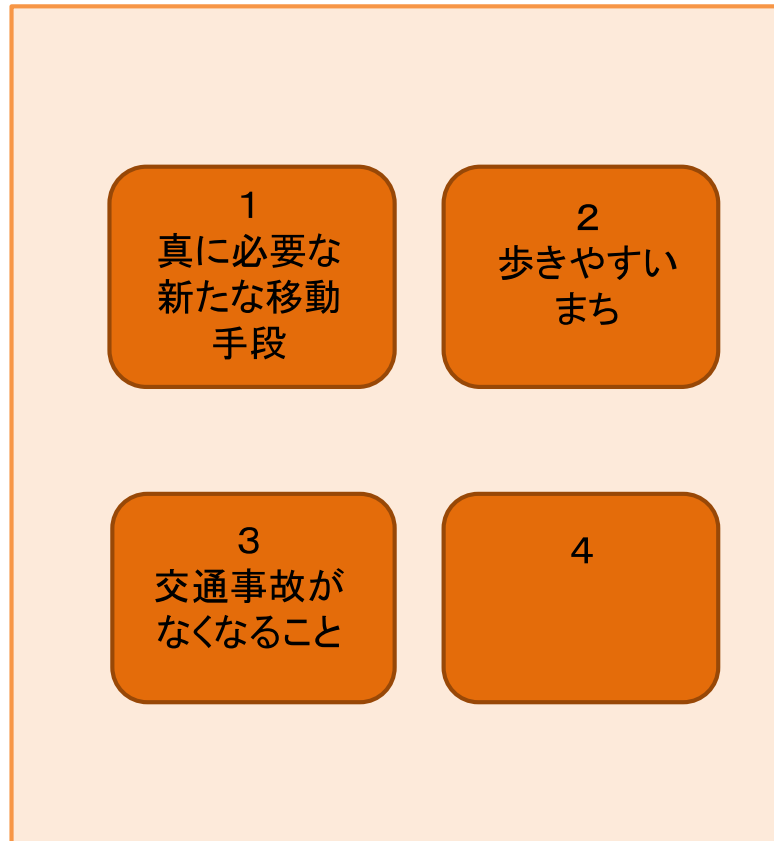
検討チーム 3

山手台での交通事故がなくなることを目指した
アクションを考える。

■参考に・・・第2回WSのアイデアを整理してみたら・・・

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	■地域見守り隊のメンバーをもっと増やすために周知活動の力を入れる。（ラジオ体操グループとの連携も検討） ■通学路の表示を明記し、周知を徹底する。 ■外部交通に対するマナー啓発の看板設置。 ■飛び出し坊やをPTAと子供たちとでWS形式で製作して追加する。（子ども達に交通マナーを教えることもセット） ■事故が起こりそうな危険箇所を組織で共有。 ■危険マップをつくる（ヒヤッと、事故があったところ）。 ■自治会単位で啓蒙活動をする。 ■学校で行われているように、大人向けにも自転車教室を実施する。	■ルールを守っていない人の多くは取組に参加しない可能性が高いため、それらの人に伝える工夫が必要
行政との協働 で 取り組むこと	■信号のない横断歩道において、時々警察の方に取り締まりをしてもらう。	■三叉路でカーブミラーを設置する。 ■自動車のスピードを落とす工夫として意図的に段差を設ける。（周辺住宅への騒音問題には配慮）

本日のグループ分け



検討チーム 2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするためのアクションを考える。

【第2回WSで出されたアイデア】

項目	やること	アイデア
歩きやすく安全な歩行環境を作し出す	歩道の街路樹を伐採（または植え替え）し、歩道の環境を改善	- 街路樹を残すことと歩道の安全確保の両立は困難である。そのため、例えば思い切って歩道を安全確保に特化させ、街路樹を伐採する。 - 自動車が入らない遊歩道（散策路）の設置増設を検討せず、歩いて楽しい空間をまちに残す。 - 常緑樹へ植え替える。その際に背丈の低い街路樹を選び、自動車からの視認性を高める。 - 歩道を広くしてもらえるように市にお願いする。
出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う		- 少なくとも通学路だけは地域で協力して掃除を行う。 - 草刈りをしてくれるボランティアを募る。 - 地域で資金を出し合い、シルバー人材センターを活用して人員を確保する。 - グラウンドカバーになる植物を栽培する。 - 除草剤や地割れ部分を補修材で埋め、再び生えにくくする。 - 陥没穴など地域で対応しにくいものは市にお願いする。
夜の歩道を明るく照らす		歩道に蓄光式タイルや太陽光発電のライトを設置する。

検討チーム 2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするためのアクションを考える。

やること		
具体的なアイデア		
視点		
必要なもの・ひと・かね・支援など		
コミュニケーションの場や連携の場		
最初の一本		
参加者		

個人意見シート

考えたいこと

私の視点・意見・アイデアなど

地域活動の活性化に向けたワークショップ

[山手台校区]

グループに分かれて話そう

自己紹介

- ①所属団体等
- ②名前
- ③今の気持ちを一言で

第2回ワークショップで出された班ごとの意見

1 班 ①生活を支える「移動」の問題		
課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【通院が不便な問題】 ・高槻赤十字病院に通院する人が多いが、適当な交通機関がない。 ・知り合いに送迎してもらっている人もいるが、送迎してもらえない人がいない人もいる。 ・高槻にある病院なので、バスを走らせることは難しそう。 ・そもそも山手台では、かかりつけ医をどうするかという問題がある。看取りできる医院がない。 【買い物が不便な問題】 ・買い物に出て行くことができない人（特に高齢者）の対応が必要になってきている。 ・大きなものを買う場合に、持って帰れないという不安がある。 【バス便の不便】 ・山手台までのバス運賃が¥380 と他と比べて高い。 ・実際はバスを利用せず、運賃よりも高い駐車場代を払ってでも、車で買物に出ることが多いようだ。 ・バスの利便性を高めるには、利用客の増加を考える必要がある。 ・茨木サニータウン線（77 番）の実現に長かったが、往復路線のため、時間がかかる。 ・バスを利用すると高槻駅まで1時間もかかる。 【山手台内移動の不便】 ・山手台の中での移動手段がない。例えば、バス停までの足、買物への足など。	○必要な地域交通を検討するうえで、住民のニーズ・実態（移動目的・適切な移動手段・ルート）をまず把握する必要がある。 ○移動に関する事業者（バス・タクシー）以外に地元でできることを考える。（福祉委員会による配達サービス充実や助け合い送迎できる方法等）	＜移動ニーズの具体的に把握する（アンケート等）＞ ・ドア to ドアが求められるが、すべての住民にとって利便性の良い移動方法というのは実現が難しい。 ・実際にどのような移動ニーズがあるのかを把握してから対策を検討する必要がある。（必要な人は誰か、バス停までなのか、買物なのか、通院なのか、市内へ直接行きたいのか等）。 ＜助け合い関係づくり：住民の情報を把握する＞ ・例えば高槻赤十字病院へ、通勤ついでに知人を送ることもある。（通勤ついでなので可能） ・そういった住民同士の助け合い関係づくり・コミュニティづくりも大切。 ・自主防災会では、1 人暮らし、認知症の方の把握をしようとしている。 ・一方、住民の情報が個人情報保護の観点から得られない状況もある。 ・住民の情報やニーズを地域で把握する。 ＜福祉委員会による配達サービスの充実＞ ・コープの配達を利用している人も多いが、会費や注文が必要。 ・福祉委員会による配達サービスの現状 ➢ 40 人程度のスタッフでシフト制（AM2 人、PM2 人、4 人／日） ➢ 依頼件数：1 日 5～6 件で、最多 17 件という日もあった。 ➢ 福祉委員会でのスタッフの確保、シフト体制づくりが課題。 ➢ ツジミは受付等の場所を無償で提供していただいている。 ➢ 費用は配達料+福祉委員会の予算による。スタッフは皆ボランティア。 ・ツジミの集客確保のためにツジミによる配達はできないのか。（以前はあったが採算が合わなかったようだ） ・電話で注文を受けて、福祉委員会が火曜日に配達することはできないか。 ・明石市ではおむつの配達事業を開始するようだ（配達が目的というよりも支援が必要な人の把握、アウトリーチの考え方） ＜送迎サービスを地元で運営する＞ ・車両を市が貸与し、運転やガソリン代を地元が担うことで実現できないか。 ・乗降バス（山手台内の乗り降り自由）を走らせる。

テーマ以外で話し合った大切な内容 【話し合いの場への参加保障を】 （今日参加できなかったママの声） ・ 平日の夜に開催する場には参加できない・意見を聞くつもりはないと現していることと同じ。 ⇒話し合いの場を様々な時間帯に開催を（参加保障） ＜自治会・管理組合の運営＞ ・ 陽和台第3住宅管理組合・自治会 管理組合・自治会統合を統合した。役回りが少なくなり（50 人→25 人）、会議も効率化している。連合自治会は抜けたが、自治会で夏祭りも開催できている。 ・ 陽和北自治会 自治会の加入率が下がっている。統合の話もあるが、合意形成難しい	○バス利用の促進を行う方法を考える。 ○利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える	＜タクシーの利用促進・支援＞ ・ タクシーのような移動手段が必要 ・ 車を維持するよりもタクシー利用の方が安く済むことも事実で、すでにタクシーを上手く使っている人もいる。 ・ タクシーチケットの配布はどうか（月 1 片道分等） ＜日赤との連携・提案＞ ・ 山手台からの通院人数を把握する。 ・ 高槻赤十字病院に山手台の通院ニーズや送迎手段について提案する。 ＜バスルートの提案＞ ・ JR 茨木ー山手台ー阪急茨木市の循環ルートがあれば便利！本数よりもルート改善で良くなるはず。 ・ 循環バスは難しい・採算が合わないという話もある。 ・ 循環バスの社会実験をやってはどうか。 ・ 他より運賃が高い部分についての補助も検討してほしい。
---	--	---

2 班 ①生活を支える「移動」の問題		
課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【要介護前の方の移動手段の確保】 ・75 才以上の人が増えてきたら移動手段がなく困る人が増えてくる。 ・介護保険を使うまでではないけど、移動に不自由な人の移動手段をどうするかが課題である。 【買い物・通院が不便】 ・買い物するのが不便。移動販売があればいいが。 ・地域内に病院がなく不便である。 【路線バスの利便性が低い】 ・通勤する人が減っているの、路線バス利用者が減っている。その結果、運行頻度など利便性も低下している。	○移動に困っている人を具体的に把握する（誰が、どのような目的の移動に困っているか）。 ○地域内の交通手段を確保する方法を考える	<移動に困る人、困っている人の把握> ・どれぐらい困る人が増えるのか実態をみる <いろいろな人・組織から助けを借り買い物をする> ・介護保険事業でヘルパーさんを買ってきてもらう。 ・ツジトミなどの移動販売があればいい。 ・福祉委員会でツジトミで買ったものの配達サービスを実施している。 - 事前にツジトミに電話注文して、配達する形ができればいい。 - ツジトミ直営での配達は難しいと言われている。 <地域内の交通手段を導入する> ・地域内の交通手段がほしい。一回 100 円かかっても乗ると思う。 ・バス停までの交通手段が必要な状況である。坂もあるのできめ細やかな停留所がほしい。 ・買い物、通院、コミセンなど、目的を明確にした交通手段があれば使いやすいのではないか。 ・路線バスの利用者をとらないような形で導入する必要がある。 ・デマンド型交通がいいのではないか。 <いろいろな人・組織から助けを借り移動手段を確保する> ・介護保険事業所を運営している社会福祉法人の車に混乗させてもらう。 ・学習塾が運行しているバスに混乗させてもらう。 ・店舗に買い物用の巡回バスを運行してもらう。 <地域ボランティアによる地域内交通の導入> ・地域ボランティアによる地域内交通が導入できればいい。 - 以前取り組んでいたが、ボランティアでは続かない。継続させられる方法を考えていく必要がある。 - 実施する際の車両購入費も課題である。 <活動を支える仕組みの検討> ・会員制にして、みんなで支える意識をもってもらう。 ・店舗や病院などスポンサーを募り、支えてもらう ・行政によるサポートはやはりほしい。

3 班 ②道路・交通の安心・安全の問題		
課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【歩道の環境が悪い】 ・街路樹が歩道脇に植わっているため、1)歩行空間が狭い、2)自動車から歩道への見通しが悪い、という問題がある。 ・街灯が少なく、夜になると暗くて歩きづらい。 ・秋になると落ち葉が多く、掃除が大変。 ・草刈りは 1 年に 1 回しかなく伸び放題になっており、歩道が狭くなっている。地域で草刈りはしているものの、住宅地の中だけであり、歩道部分の草刈りはできていない。 ・坂道の凸凹・陥没穴・根上がりなどが補修されずに放置されており、歩きにくい。 【交通事故危険個所の存在】 ・信号の無いところは自動車がスピードを出しがち。 ・運転手のマナーが良くない。 ・サニー幼稚園前は特にヒヤットすることが多く改善が必要。	○歩きやすく安全な歩行環境を作り出す ○交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）	<歩道の街路樹を伐採（または植え替え）し、歩道の環境を改善する> ・街路樹を残すことと歩道の安全確保の両立は困難である。そのため、例えば思い切って歩道は安全確保に特化させ、街路樹を伐採する。 ・自動車が入らない遊歩道（散策路）の街路樹は伐採せず、歩いて楽しい空間をまちに残す。 ・常緑樹へ植え替える。その際は背丈の低い街路樹を選び、自動車からの視認性を高める。 ・歩道を広くしてもらえるように市にお願いする。 <出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う> ・少なくとも通学路だけは地域で協力して掃除を行う。 ・草刈りをしてくれるボランティアを募る。（難しい場合は市に草刈りの回数を増やしてもらう） ・地域でお金を出し合い、シルバー人材センターを活用して人員を確保する。 ・グラウンドカバーになる植物を検討する。 ・除草跡や地割れ部分を補修材で埋め、再び生えにくくする。 ・陥没穴など地域で対応しにくいものは市にお願いする。 <夜の歩道を明るく照らす> ・歩道に蓄光式タイルや太陽光発電のライトを設置する。 <通学路の安全性を高める> ・信号のない横断歩道において、時々警察の方に取り締まりをしてもらう。 ・通学路の表示を明記し、周知を徹底する。 ・地域見守り隊のメンバーをもっと増やすために周知活動の力を入れる。その際、ラジオ体操グループとの連携も検討する。 ・危険マップをつくる（ヒヤット、事故があったところ）。 ・飛び出し坊やを新たに追加する。PTA だけでは人手が足りないので子供たちと WS 形式で製作する。その際、子ども達に交通マナーを教えることもセットで行う。 ・三叉路ではカーブミラーを設置する。 ・自動車のスピードを落とす工夫として意図的に段差を設ける。（周辺住宅への騒音問題は事前に検討しておく必要がある）

4 班 ③交通マナー等の問題		
課題点	検討すべきポイント	アイデア（やり方含む）
【自動車の交通マナーの問題】 ●地域外(新名神)から来る車のマナーが悪い ・地域外の人スピードを出していることが多い ・流通センターが増えて車が多くなってきている ・桑ノ原から入る道に(T字路)止まらない車がある ・見えづらい交差点で事故がある。慣れていないと危ない。 ●住民もルールを守っていない場合がある ・スピードを出す車が昔より多くなった ・“止まれ”の看板を無視する車がある（デイクアの前など） ・保育園前ロータリーでウインカーを出さない車がある 【自転車の交通マナーの問題】 ・自転車道が上手く使えていないため、マナーの向上もしっかり指導してほしい。 ・電動アシスト付き自転車の普及により、自転車通勤、通学者が増えている。坂道の多い地域なので下り坂のスピードの出し過ぎに注意してほしい ・左側通行が徹底されていない 【高齢者の運転の問題】 ・免許返上をすると買い物ができなくなるため、運転免許証返上した場合に生活するための対策を考える必要がある。 ・高齢者の自動車事故も実際にある	○外部交通のマナー対策を行う必要がある ○住民のマナー向上を目指す必要がある。 ○住民のマナー向上を目指す必要がある。（再掲） ○高齢者の移動手段を支える方法から考える必要がある。	＜必要な場所に看板を設置する＞ ・外部交通に対するマナー啓発の看板が必要ではないか。 ＜学校付近の交通ルールについて注意喚起を行う＞ ・学校付近の交通の注意喚起をする（特に昼・夕方）。 ・現在も子どもの見守りをしている方がいる。 ・事故が起こりそうな危険な箇所について、組織としては共有できていない。 ＜自治会単位でルールの徹底を呼び掛ける＞ ・自治会単位で啓蒙活動をする。ポスティングで参加を促す（別の取組の際に効果があった）。 ・ルールを守っていない人の多くは取組に参加しない可能性が高いため、それらの人に伝える工夫が必要 ・学校では自転車教室を実施している。大人向けにも自転車教室を実施するなど。 ＜高齢者が運転する際の事故を防ぐ＞ ・高齢者運転(75歳以上) 急発進防止装置の義務化を行う。 ＜高齢者の移動手段を手助けする＞ ・スーパーの帰りに、知り合いの高齢の方がいたら送っていくようにしているが、人を乗せるのは怖い、という人もいる。 ・自動運転の活用を将来的にできないか。

山手台 移動・交通に関する検討候補一覧（第2回WSの意見の整理）

	項目		やること
1	必要な地域交通を検討するうえで、住民のニーズ・実態を把握する	①	移動ニーズ・移動に困っている人を具体的に把握するアンケート調査
		②	住民同士で送迎の助け合い → そのための住民情報の把握
2	バス・タクシー事業者だけでなく、地元（住民・事業者）でできることを考える	①	福祉委員会による配達サービスの充実
		②	送迎サービスを地元で運営する
		③	地域の事業者と連携した交通手段を検討する
3	利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える	①	タクシーの利用促進・支援
		②	日赤病院との連携による送迎手段の提案
		③	より便利なバスルートの検討・提案
4	歩きやすく安全な歩行環境を作り出す	①	歩道の街路樹を伐採（または植え替え）し、歩道の環境を改善
		②	出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う
		③	夜の歩道を明るく照らす
5	交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）	①	見守り・取り締まりを充実
		②	交通マナーの向上・注意喚起を推進する
		③	道路における交通安全の工夫（ハード整備）
6	高齢者の移動手段を支える方法から考える	①	急発進防止装置の義務化

山手台における今後の取組の主体別分類イメージ

住民による主体的な取り組み①（調査）

- 1 住民のニーズ・実態を把握する
- ① 移動ニーズ・移動に困っている人を具体的に把握するアンケート調査
 - ② 住民同士で送迎の助け合い → そのための住民情報の把握

住民による主体的な取り組み②（活動）

2 地元（住民・事業者）でできることを考える

- ① 福祉委員会による配達サービスの充実
- ② 送迎サービスを地元で運営する
- ③ 地域の事業者と連携した交通手段を検討する

4 歩きやすく安全な歩行環境を作り出す

- ① 歩道の街路樹を伐採し、歩道の環境を改善
- ② 出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う

5 交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）

- ① 見守り・取り締まりを充実
- ② 交通マナーの向上・注意喚起を推進する

行政への提案と協働が想定される取組

4 歩きやすく安全な歩行環境を作り出す

- ③ 夜の歩道を明るく照らす

5 交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）

- ③ 道路における交通安全の工夫（ハード整備）

事業者への提案と協働が想定される取組

3 利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える

- ① タクシーの利用促進・支援
- ② 日赤病院との連携による送迎手段の提案
- ③ より便利なバスルートの検討・提案

行政が主体的に行う取り組み

6 高齢者の移動手段を支える方法から考える

- ① 急発進防止装置の義務化

検討チーム 1

山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するためのアクションと仕組みを考える。

まず、ニーズ調査をして、本当に必要な「移動」を考える

「誰が」「どこに行くための」「どんな交通手段」を必要としているのか。

「利用してもらわなければ成り立たない」

⇒ **どんな人が、どんな時に困っているのか？**

「利用ニーズを掘り起こさなければ成り立たない」

⇒ **活動・暮らしがなければ移動ニーズは高まらない**

第2回WSの意見

1 住民のニーズ・実態を把握する

- ①移動ニーズ・移動に困っている人を具体的に把握するアンケート調査
- ②住民同士で送迎の助け合い → そのための住民情報の把握

過去に行った取り組みや、現在行っている活動などで、わかっていることはまず確認してみよう！



自分たちでできることから取り組んでみることを考える

ニーズを踏まえて、どんなことなら自分たちでできるのか。

「自分たちでできることを考えなければできない」 ⇒ **何ができるのか**

「担い手がいなければ成り立たない」 ⇒ **誰がやるのか**

福祉委員会は配達サービスを実施している。

第2回WSの意見

2 地元（住民・事業者）でできることを考える

- ①福祉委員会による配達サービスの充実
- ②送迎サービスを地元で運営する
- ③地域の事業者と連携した交通手段を検討する

すでに行われていることも踏まえて、今できていないことを確認し、本当に取り組むべきことを考えてみよう。



自分たちではできない部分について事業者との連携を考える

事業者にとってもメリットのある事業とすることができるのか。

「お金やメリットがなければ続かない」 ⇒ **事業としての持続性は？**

第2回WSの意見

3 利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える

- ①タクシーの利用促進・支援
- ②日赤病院との連携による送迎手段の提案
- ③より便利なバスルートの検討・提案



事業者との協力関係の下、じっくりと考える必要がありますね。

検討チーム 2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするためのアクションを考える。

第2回WSの意見

4 歩きやすく安全な歩行環境を作り出す

- ①歩道の街路樹を伐採し、歩道の環境を改善
- ②出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う
- ③夜の歩道を明るく照らす

歩きやすいまちとするために、優先的に取り組むことを考えて、進めていこう。



■優先順位の考え方

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	☆ すぐやることを考えよう	◎ 地域の中でも相談しながら進めよう
行政との協働で 取り組むこと	◎ 行政とも協議しながら進めよう	○ 行政とも相談しながら 可能性と進め方を確認しよう

■参考に・・・第2回WSのアイデアを整理してみたら・・・

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、じっくりと 取り組むべきこと
地域の力で できること	■通学路だけは地域で協力して掃除を行う。 ■草刈りをしてくれるボランティアを募る。	■地域でお金を出し合い、シルバー人材センターを活用して人員を確保する。
行政との協働で 取り組むこと	■除草跡や地割れ部分を補修材で埋め、再び生えにくくする。 ■陥没穴など地域で対応しにくいものは市にお願いする。	■歩道の街路樹伐採・常緑樹への植え替え (自動車が入らない遊歩道の街路樹は伐採せず、歩いて楽しい空間をまちに残す。など、考え方を整理して、行政とも相談する必要がある) ■草刈りの必要性が低くなる植栽(グランドカバー)への植え替え ■歩道を広くする ■歩道に蓄光式タイルや太陽光発電のライトを設置する。

検討チーム 3

山手台での交通事故がなくなることを目指したアクションを考える。

第2回WSの意見

5 交通事故危険個所における事故防止の対策を考える（特に通学路）

- ①見守り・取り締まりを充実
- ②交通マナーの向上・注意喚起を推進する
- ③道路における交通安全の工夫（ハード整備）

交通事故がなくなることを目指して、優先的に取り組むことを考えて、進めていこう。



■優先順位の考え方

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力で できること	☆ すぐやることを考えよう	◎ 地域の中でも相談しながら進めよう
行政との協働で 取り組むこと	○ 行政とも協議しながら進めよう	○ 行政とも相談しながら 可能性と進め方を確認しよう

■参考に・・・第2回WSのアイデアを整理してみたら・・・

	安心して歩けるまちとするために すぐにやりたいこと・できること	安心して歩けるまちとするために、 じっくり考え、取り組むべきこと
地域の力 でできる こと	■地域見守り隊のメンバーをもっと増やすために周知活動の力を入れる。（ラジオ体操グループとの連携も検討） ■通学路の表示を明記し、周知を徹底する。 ■外部交通に対するマナー啓発の看板設置。 ■飛び出し坊やをPTAと子供たちとでWS形式で製作して追加する。（子ども達に交通マナーを教えることもセット） ■事故が起こりそうな危険箇所を組織で共有。 ■危険マップをつくる（ヒヤッと、事故があったところ）。 ■自治会単位で啓蒙活動をする。 ■学校で行われているように、大人向けにも自転車教室を実施する。	■ルールを守っていない人の多くは取組に参加しない可能性が高いため、それらの人に伝える工夫が必要
行政との 協働で取 り組むこ と	■信号のない横断歩道において、時々警察の方に取り締まりをしてもらう。	■三叉路でカーブミラーを設置する。 ■自動車のスピードを落とす工夫として意図的に段差を設ける。（周辺住宅への騒音問題には配慮）

検討チーム 1

山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するためのアクションと仕組みを考える。

【第2回WSで出されたアイデア】

項目	やること	アイデア
必要な地域交通を検討するうえで、住民のニーズ・実態を把握する	移動ニーズ・移動に困っている人を具体的に把握するアンケート調査 住民同士で送迎の助け合い ⇒そのための住民情報の把握	・実際にどのような移動ニーズがあるのかを把握してから対策を検討する必要がある。 ・誰のため？「必要な人は誰か」 ・どこまで？「バス停までなのか」「市内へ直接行きたいのか」 ・何のため？「買物なのか・通院なのか」 ・例えば高槻赤十字病院へ、通勤ついでに知人を送る。そういった住民同士の助け合い関係づくり・コミュニティづくり ・そのために、住民の情報やニーズを地域で把握する。 ・自主防災会では、1人暮らし、認知症の方の把握をしようとしている。 ・一方、住民の情報が個人情報保護の観点から得られない状況もある。
バス・タクシー事業者だけでなく、地元（住民・事業者）でできることを考える	福祉委員会による配達サービスの充実 送迎サービスを地元で運営する 地域の事業者と連携した交通手段を検討する	【福祉委員会による配達サービスの現状】 ・40人程度のスタッフでシフト制（AM2人、PM2人、4人ノビ） ・依頼件数：1日5～6件で、最多17件という日もあった。 ・福祉委員会でのスタッフの確保、シフト体制づくりが課題。 ・ツジトミは受付等の場所を無償で提供していただいている。 ・費用は配達料＋福祉委員会の予算による。スタッフは皆ボランティア。 ・ツジトミの集客確保のためにツジトミによる配達ができないのか。（以前はあったが採算が合わなかったようだ） ・電話で注文を受けて、福祉委員会が火曜日に配達することはできないか。 ・明石市ではおむつの配達事業を開始するようだ（配達が目点というよりも支援が必要な人の把握、アウトリーチの考え方） ・車両を市が貸与し、運転やガソリン代を地元が担うことで実現できないか。 ・乗降バス（山手台内の乗り降り自由）を走らせる。 ・高齢者の移動手段を手助けしたい。スーパーの帰りに、知り合いの高齢の方がいたら送っていくようにしているが、人を乗せるのは怖い、という人もいる。 【地域ボランティアによる導入】 ・以前も取り組んでいたが、ボランティアでは続かない。継続させられる方法を考えていく必要がある。 ・実施する際の車両購入費も課題である。 【活動を支える仕組みの検討】 ・会員制にして、みんなで支える意識をもってもらう。 ・店舗や病院などスポンサーを募り、支えてもらう ・行政によるサポートはやはりほしい。 ・地域内の交通手段がほしい。一回100円でも乗ると思う。 ・バス停までの交通手段が必要な状況である。坂もあるのできめ細やかな停留所がほしい。 ・買い物、通院、コミセンなど、目的を明確にした交通手段があれば使いやすいのではないか。 ・路線バスの利用者をとらないような形で導入する必要がある。 【いろいろな人・組織から助けを借りる】 ・介護保険事業所を運営している社会福祉法人の車や、学習塾のバスに混乗させてもらう。 ・店舗に買い物物の巡回バスを運行してもらう。

項目	やること	アイデア
利用ニーズに合ったバスルートや送迎ルートを考える	タクシーの利用促進・支援 日赤病院との連携による送迎手段の提案 より便利なバスルートの検討・提案	・車を維持するよりもタクシー利用の方が安く済むことも事実で、すでにタクシーを上手く使っている人もいる。 ・タクシーチケットの配布はどうか（月1片道分等） ・山手台からの通院人数を把握する。 ・高槻赤十字病院に山手台の通院ニーズや送迎手段について提案する。 ・JR茨木―山手台―阪急茨木市の循環ルートがあれば便利！本数よりもルート改善で良くなるはず。 ・循環バスは難しい。採算が合わないという話もある。 ・循環バスの社会実験をやってはどうか。 ・他より運賃が高い部分についての補助も検討してほしい。

検討チーム 1

山手台で真に必要な新たな移動手段を実現するための
アクションと仕組みを考える。

やること		
具体的な アイデア・ 視点		
必要なもの・ こと・ひと・ かね・支援 など		
スケジュール (いつ・どの順 番で進めるか)		
最初の一步		
参加者		

検討チーム 2

山手台が今よりも歩きやすいまちとするためのアクションを考える。

【第2回WSで出されたアイデア】

項目	やること	アイデア
歩きやすく安全な歩行環境を作り出す	歩道の街路樹を伐採（または植え替え）し、歩道の環境を改善	・街路樹を残すことと歩道の安全確保の両立は困難である。そのため、例えば思い切って歩道は安全確保に特化させ、街路樹を伐採する。 ・自動車が入らない遊歩道（散策路）の街路樹は伐採せず、歩いて楽しい空間をまちに残す。 ・常緑樹へ植え替える。その際は背丈の低い街路樹を選び、自動車からの視認性を高める。 ・歩道を広くしてもらえるように市にお願いする。
	出来る限り地域主体で歩道の掃除や草刈りを行う	・少なくとも通学路だけは地域で協力して掃除を行う。 ・草刈りをしてくれるボランティアを募る。 ・地域でお金を出し合い、シルバー人材センターを活用して人員を確保する。 ・グラウンドカバーになる植物を検討する。 ・除草跡や地割れ部分を補修材で埋め、再び生えにくくする。 ・陥没穴など地域で対応しにくいものは市にお願いする。
	夜の歩道を明るく照らす	・歩道に蓄光式タイルや太陽光発電のライトを設置する。



検討チーム 2 山手台が今よりも歩きやすいまちとするためのアクションを考える。		
やること		
具体的な アイデア・ 視点		
必要なもの・ こと・ひと・ かね・支援 など		
スケジュール (いつ・どの順 番で進めるか)		
最初の一步		
参加者		

検討チーム 3

山手台での交通事故がなくなることを目指したアクションを考える。

【第2回WSで出されたアイデア】

項目	やること	アイデア
交通事故危険箇所における事故防止の対策を考える（特に通学路）	見守り・取り締まりを充実	・信号のない横断歩道において、時々警察の方に取り締まりをしてもらう。 ・地域見守り隊のメンバーをもっと増やすために周知活動の力を入れる。その際、ラジオ体操グループとの連携も検討する。
	交通マナーの向上・注意喚起を推進する	・通学路の表示を明記し、周知を徹底する。 ・外部交通に対するマナー啓発の看板が必要。 ・飛び出し坊やを新たに追加する。PTA だけでは人手が足りないので子供たちとWS形式で製作する。その際、子ども達に交通マナーを教えることもセットで行う。 ・事故が起こりそうな危険な箇所について、組織として共有できていない。 ・危険マップをつくる（ヒヤット、事故があったところ）。 ・自治会単位で啓蒙活動をする。ポスティングで参加を促す。 ・ルールを守っていない人の多くは取組に参加しない可能性が高いため、それらの人に伝える工夫が必要 ・学校では自転車教室を実施してる。大人向けにも自転車教室を実施する。
	道路における交通安全の工夫（ハード整備）	・三叉路ではカーブミラーを設置する。 ・自動車のスピードを落とす工夫として意図的に段差を設ける。（周辺住宅への騒音問題は事前に検討しておく必要がある）



検討チーム 3 山手台での交通事故がなくなることを目指したアクションを考える。		
やること		
具体的な アイデア・ 視点		
必要なもの・ こと・ひと・ かね・支援 など		
スケジュール (いつ・どの順 番で進めるか)		
最初の一步		
参加者		